

# 独立行政法人国立博物館に係る業務の実績に関する評価（平成14年度）

## 1. 評価の理念

国民本位の効果的で質の高い行政を実現するため、法人が現代及び未来の日本の社会にどのように貢献するかの視点に立ち、客観的な評価を行うことにより、行政の説明責任を果たし、あわせて業務の改善・活性化を図り、法人の自主性・自律性を担保する。

## 2. 評価の趣旨

事業年度において、中期計画の実施状況を調査・分析し、業務の実績の全体について総合的な評定を行うことにより、以降の業務運営の改善に資する。

## 3. 評価のプロセス

評価は、法人から事業の説明を受けヒアリングした後、各委員が書面評価した上で合議により決定した。また、資料として、実績報告書（自己点検評価を含む）、財務諸表、外部評価委員会の評価、監事・会計監査人からの意見及び展覧会の図録等を使用した。

## 全体評価

事業活動、業務運営について、項目別評価の結果等を踏まえつつ、法人の業務の実績について記述式により評価する。また、業務全体について横断的な観点から、評価の理念である法人が現代及び未来の日本の社会にどのように貢献するかに基づき国民的視点に立って評価する。

評価項目	評価の結果
事業	<p>平成14年度、国立博物館は、各館の目的及び基本方針に基づき、調査研究や展覧会への出品交渉など日常的な活動を通じて所有者に働きかけ、購入89件、寄贈615件、寄託119件の文化財を外部有識者の意見を聴取するなどして収集し、各館にふさわしいコレクションの充実を図った。特に、独立行政法人のメリットを生かして伝雪舟筆「四季花鳥図屏風」を購入したことや寄贈で高い成果を上げた。また、その散逸、破壊、海外流出が問題とされる中で、優れた文化財を後世へ継承するという極めて重要な役割も果たした。文化財の収集は、その件数だけで評価されるものではないが、今後とも、文化財を収集しやすくするため、文化庁と連携協力し税制問題を含めてその推進方策を検討するとともに、3館で情報交換を図りながら各館にふさわしい作品を収集する必要がある。</p> <p>保管についても、確実に行われたと評価できる。特に、東京国立博物館では保存修復支援技術者を新たに3名配置したり、奈良国立博物館では空調設備を改修したりするなど、より良い保管環境とするための改善が継続して行われた。なお、24時間空調が行われていない施設については、保管に適切な温湿度の範囲を超えないよう、また、急激な温湿度変化が生じないようにする必要がある。保存・修復の専門的な知識を有する職員がいない館は、外部の研究者の協力を得るなどして、その強化に努めることが望ましい。</p> <p>また、修理については、緊急を要するものから計画的に実施し、保存カルテや修理データも確実に記録された。引き続き、保存・修復に関するデータベースの共通規格化を検討することが望ましい。なお、文化財の取扱いについては、その知識と技術が重要であるとともに慎重さが求められることから、引き続き、職場での体験や研修を通じて、その継承に努める必要がある。</p>
活動	<p>国立博物館が国民に対して提供するサービスの中心である展覧会は、各館の特色や日常的な調査研究の成果を生かした平常展、幅広い層を対象とし国民の関心をより強く喚起した企画展、国内外に優れた美術作品を鑑賞する機会を提供した地方巡回展・海外交流展など、様々な内容のものをバランス良く企画し、幅広い層が満足する展覧会を行った。また、目標の入館者数約134万人を大きく超える約239万人が観覧し、入館者に対するアンケート調査の結果においても、約8割から「良かった」との回答を得ている。</p> <p>入館者の目標については、その目標数の算出に難しい面もあったと思われるが、平成14年度より小・中学生の平常展の観覧料金を初めて無料化したことや広報・宣伝などの自己努力の結果、最終的に目標を大きく上回る実績結果となった。</p> <p>より多くの国民を国立博物館に引き付けるため、展示の充実以外にも館の魅力を高めることが重要である。そのためには、効果的な広報を行い、観光や地域の振興に果たす役割を持つような戦略などを不断に検討し、いままで観覧したことのない人の興味も喚起し、何度でも足を運んでもらえるような改善を図る必要がある。</p> <p>その他、文化財の活用として、公私立の博物館等に対して、その貸与や特別観覧を行い、文化財を広く国民へ公開することに貢献した。貸与については、引き続き、文化財の保管状態や自館での展示計画に留意し、貸与要望の主旨を考慮しながら、幅広く応えていくことが望ましい。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 展覧会場の混雑緩和については、入場制限や柔軟な開館時間の設定のほか、「大レンブラント展」（京都国立博物館）では整理券を発行するなどその改善に力を注いだ。今後とも、整理券や期限付きの招待券の発行等を検討し、より良い観覧環境を確保するための努力を続ける必要がある。また、見易く、分かり易い作品解説にするよう工夫するなど、展示の持つ教育普及的效果に、十分配慮することが望ましい。</p>
調査研究	<p>収蔵品や展覧会に関する調査研究は確実に行われ、文化財の収集や展示に反映するとともに、図録の刊行などに成果をあげた。その他にも、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得や外部の研究者との連携・協力により、充実した調査研究が行われた。外部の研究者との交流については、今後も積極的に行い、人的ネットワークを広く形成することが望ましい。</p> <p>また、研究員の日常的な調査研究は、今後の収集・保管、展覧会、教育普及など博物館活動の基礎となるため、今後とも、研究成果の蓄積に努めることが望ましい。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 研究成果については、国立博物館が作成する図録や研究紀要等で公開されているが、研究紀要の発行等に際しては、編集方針を併記するなど学術的に高い水準を確保することが望ましい。また、学会で発表する等、広く公開していくことが望ましい。</p>
教育普及	<p>国立博物館は、年齢や職業など幅広い層を対象として、資料の公開、広報活動、講演会、ワークショップの実施、学校等との連携、友の会、ボランティアの活用など様々な教育普及活動に取り組み、年度計画以上の実績を上げた。これらの活動は、展示や解説を学術的に高い水準を維持しつつ、よりわかりやすく提示するものとして、有効であった。今後は、これらの教育普及活動に参加した人に、博物館をどのように利用すればよいかを示唆できるよう、内容をより一層工夫することが望ましい。</p> <p>また、限られた人員と予算の中で充実した教育普及活動を行うためには、引き続き、国立博物館として果たすべき役割を検討し、その上で全般にわたる見直しを検討することが望ましい。特に、博物館実習生の受入れについては、他の業務とのバランスを勘案の上、目的の明確化と内容を見直す必要がある。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 収蔵品及び図書などの諸資料のデジタル化やその公開については、より一層の取組が望まれる。</p>
その他の入館者サービス	<p>入館者に楽しく過ごしてもらうためには、展示以外のサービスにも十分に配慮しなければならない。平成14年度は、入館者の意見も採り入れながら、小・中学生の平常展の観覧料金の無料化、開館日の増、レストランのメニューの充実やミュージアムショップの商品の充実など、誰もが利用しやすく、また、快適に過ごせる時間と空間を提供することに努めたと評価する。また、入館者と直に接する受付・案内の職員や看士員、及びレストラン、ミュージアムショップ等の職員の対応は重要であり、接客についての研修を充実することが望まれる。</p>

	<p>また、アンケート調査を引き続き実施することにより、積極的に入館者の声を聞き、入館者が充実した時間を過ごせるよう、展覧会の企画、広報などあらゆる事業の改善にその結果を活用することが望まれる。なお、モニター制度の導入についても検討することが望ましい。</p> <p>サッカーのワールドカップ開催期間中は、外国人観光客に対し平常展の観覧料金を無料にし、「日本美術の流れ展」(東京国立博物館)を開催するなど、日本文化の理解促進に貢献した。政府の観光立国懇談会の報告書等を踏まえ、引き続き、外国人にも親しまれるための改善に力を入れる必要がある。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】      今後は、館へのアクセス情報等、インターネットを活用したサービスについても積極的な検討が望まれる。</p>
業 務 運 営	<p>国立博物館のトップマネジメントは、理事長、理事及び監事で行われ、各館の特徴を生かしつつ、一つの法人として一体的な運営をした。</p> <p>平成14年度は、博物館にとって重要な年齢層である小・中学生への積極的な働きかけとして、平常展の観覧料金を無料化したことを特に評価する。その他にも、サッカーのワールドカップ開催関連事業の推進、開館日の増や夜間開館の実施、ボランティアの活用、各種イベントの開催など、幅広い層の人々が博物館に親しんでもらうための事業を積極的に行い、多くの人々が国立博物館の展覧会を観覧した。特に、企業等が行う各種イベントやコンサート等の開催に自館の施設を有効に活用する等、新しい博物館の運営に積極的に取り組んでいることを評価する。</p> <p>国立博物館の運営においては、トップマネジメントの果たす役割が最も重要であり、今後とも、文化財、人材、情報など国立博物館の持っている資源を最大限に活用し、3館が一体となった効率的かつ効果的な運営を行っていくことを期待する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】      国立博物館は、地震・火事・洪水又は人災などのあらゆる災害が起きた場合、人の安全を最優先としながらも、文化財を安全に保管し後世へ継承する責任があるため、あらゆる危機にも的確な判断と行動がとれるよう危機管理のマニュアル作りが重要である。      今後は、展覧会の企画や独自の展示手法などに伴って発生しうる権利の問題についても検討することが望まれる。</p>
財 務	<p>平成14年度の総利益の内、展覧会の企画や広報の充実などにおいて経営努力をしたことにより、入場料、図録の販売等の収入を伸ばし、当初予算額に比べ3億4千1百万円増の利益をあげた。その他、特に、平成14年度からは企業等が行う各種イベントによる施設の貸与や賛助会員制度、デジタル画像等の販売などにより増収を図ったことを評価する。</p> <p>国立博物館が目指す効率化は、無駄な経費を節約し、できる限り小さいコストで、効果的により質の高いサービスを国民に提供するものでなければならない。平成14年度は、多くの人々が展覧会を観覧し、事業の充実を図るなど、より多くの経費を必要とする中で、業務全般について、一元化を図ったり、省エネルギーや施設の有効利用に努力し、法人全体として1%の効率化を図ることに成功した。なお、そのことにより事業活動の質の低下は見られなかった。</p> <p>平成14年度予算は、その作成時点で法人設立後1年を経過していなかったため、実績に基づく予算配分となっていなかった。そのため、事業ごとの予算と決算に大きな差異が生じたが、平成15年度は、各事業の実績等を勘案した上で、予算を作成し、コスト意識を持ちながら柔軟で弾力的な執行を行い、その結果を自己点検する必要がある。</p> <p>平成13年度の運営費交付金債務は、平成14年度に文化財の購入及び施設の改修として全て執行された。また、平成14年度は約2億2千万円の運営費交付金債務が生じており、平成15年度に文化財の購入及び施設の改修を行う予定である。なお、法人設立時の現物出資により生じた還付消費税は、適切に管理された。</p> <p>国立博物館が安定した運営を行うためには、国からの支援と自己収入の確保が不可欠である。その他、民間企業からの寄附や協賛などを得るなどの渉外活動も大切である。そのため、今後とも、その規模や目的に応じた活動により、国立の博物館としてふさわしい役割を果たし、社会の利益に奉仕していることについて、国民の理解が得られるよう努力を続けていかなければならない。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】      文化財の貸与・特別観覧や施設使用の料金の設定は、国有財産の使用料に準拠している部分もあるが、今後、使用者やその目的などを勘案し、提供するサービスに見合った使用料の設定をするなど、独立行政法人として弾力的な取り扱いについて検討をすることが望ましい。</p>
人 事	<p>国立博物館は人的資源、物的資源、情報資源などを有しているが、その活用を人が決定するという点において、人的資源が最も重要である。このため、その充実を図るとともに、適正な配置による効率的かつ効果的な活用が大切であり、平成14年度においては、国立博物館の限られた人員の中で適正な配置がなされたと評価する。</p> <p>事務職員については、主として、文化庁、文部科学省、国立大学等との定期的な人事交流により、安定した人員の供給と組織の活性化がされているが、博物館業務固有の専門分野での人材育成に困難な面がある。このため、博物館運営など固有の業務についての知識を習得するための研修を実施する必要がある。また、国立博物館で独自に事務職員を採用し、人材を養成することも必要と考える。</p> <p>また、研究職員については、文化財に関する専門的知識とともに、独立行政法人における役割を十分理解し、運営や広報などの博物館活動の重要性について認識を持つことが必要である。そのため、経験と知識の専門性を尊重しつつ、文化庁や国立大学等との人事交流、又は公私立の博物館や民間企業等からの採用についても引き続き積極的に行っていく必要がある。</p> <p>その他、職員が直接行わなければならない業務以外のものについては、外部委託、外部の研究者、大学生・大学院生、ボランティアの活用の可能性について検討することが望ましい。</p> <p>なお、国立博物館として一体的な運営を目指すため、本部機能の充実を図り、3館における職員の人事交流も積極的に検討する必要がある。</p> <p>平成13年度の業務の実績に関する評価結果に対する役職員の給与や人事への反映状況については、適切に行われた。国立博物館の役職員の給与は国家公務員に準拠した額となっているが、役職員に対しインセンティブを与えるため、功績をあげた者への評価については、更に積極的に検討することが望ましい。</p>
施 設	<p>施設は国立博物館の活動の基盤であるため、業務を確実に実施するための機能を有するとともに、安全で快適でなければならない。そのため、定期的に点検を行い、計画的に改修していく必要がある。</p> <p>平成14年度は、京都国立博物館では百年記念館(仮称)関連工事、奈良国立博物館では西新館空調設備の改修、九州国立博物館(仮称)では展示実施設計を行った。</p> <p>なお、現在建設中の九州国立博物館(仮称)や建設予定の京都国立博物館百年記念館(仮称)については、文化財を適切に保管するとともに、入館者が快適に過ごせるよう検討していく必要がある。</p>
総 評	<p>国立博物館は、平成14年度においては、中期目標期間の2年目として、目標の入館者数約134万人を大きく超える約239万人が観覧し、多くの人々が満足する展覧会を開催するとともに、収集・保管、展示、調査研究、教育普及などの「国民に対して提供するサービス」、及び「業務運営の効率化」について年度計画以上の実績を上げた。また、特に、各種イベントやコンサート等を開催するなど、新しい博物館の運営に積極的に取り組んだ。さらには、ナショナルセンターとして国際文化交流を推進するとともに、国内外の博物館活動の充実へ大きく貢献するなど、中期目標にある「国民に親しまれる博物館を目指して」着実な成果を上げていると評価する。</p>

# 項目別評価

中期計画の各項目ごとに段階的評価を行う。

## 段階的評価

- 「A」 中期計画を十分に履行し、中期目標に向かって着実に成果を上げている。
- 「B」 中期計画をほぼ履行し、中期目標に向かって概ね成果を上げている。
- 「C」 中期計画を十分には履行しておらず、中期目標達成のためには業務の改善が必要。
- 「-」 評価しない。

## 定量的評価

評価を出すに至った背景や理由、改善すべき項目、目標設定の妥当性等を記述する。

## 【東京国立博物館】

### 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価																															
		A	B	C		段階的評価	定性的評価																														
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充実にして行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>(1) 各博物館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p> <p>(4) 外部委託の推進</p> <p>(5) 事務のOA化の推進</p> <p>(6) 積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	<p>効率化の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。</p>			<p>1.(1)業務の一元化(本部)                      共済組合事務、損害保険契約事務、情報公開制度事務、給与システムの一元化</p> <p>(2)省エネルギー等(リサイクル)(本部及び東博)</p> <table border="1"> <tr> <td>電気使用量</td> <td>7,528,640kwh</td> <td>(前年度比 99.34%)</td> <td>料金</td> <td>1億2,196万2,552円</td> </tr> <tr> <td>水道使用量</td> <td>51,434m<sup>3</sup></td> <td>(前年度比 95.39%)</td> <td>料金</td> <td>4,174万2,890円</td> </tr> <tr> <td>ガス使用量</td> <td>858,814m<sup>3</sup></td> <td>(前年度比 103.43%)</td> <td>料金</td> <td>4,146万7,179円</td> </tr> <tr> <td>紙の使用量</td> <td>6,155kg</td> <td>(前年度比 95.13%)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>廃棄物(一般)</td> <td>114,555kg</td> <td>(前年度比 97.90%)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(産廃)</td> <td>27,770kg</td> <td>(前年度比 89.00%)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(3)施設の有効利用                      講堂等の利用 204件 (内 有償貸付29件)                      茶室の利用 34件(64席) (内 有償貸付18件(42席))</p> <p>(4)外部委託                      警備、売札、清掃、電話交換及び各種設備の保守業務の外部委託を実施している。平成14年度には、庭園の一般開放時の警備の委託を拡大した。</p> <p>(5)OA化(本部及び東博)                      館内LANの整備(完了)、会議時におけるOA機器の活用。</p> <p>(6)一般競争入札                      一般競争入札件数 14件(契約金額 200万円以上)</p> <p>特記事項                      運営費交付金は、13年度に対し当初から1%効率化(減額)されているが、省エネルギーを心がけることにより、目標は、夏季冷房用ガス使用量が増加したことを除き、おおむね達成された。</p> <p>2.運営委員会、外部評価委員会の開催(本部)                      評議員会の開催(東博)</p>	電気使用量	7,528,640kwh	(前年度比 99.34%)	料金	1億2,196万2,552円	水道使用量	51,434m <sup>3</sup>	(前年度比 95.39%)	料金	4,174万2,890円	ガス使用量	858,814m <sup>3</sup>	(前年度比 103.43%)	料金	4,146万7,179円	紙の使用量	6,155kg	(前年度比 95.13%)			廃棄物(一般)	114,555kg	(前年度比 97.90%)			(産廃)	27,770kg	(前年度比 89.00%)			<p>B</p>	<p>多くの人々が展覧会を観覧し、事業の充実を図るなど、より多くの経費を必要とする中で、東京国立博物館の業務全般について一元化や省エネルギーに努力し1%の効率化を図った。特に、講堂等の施設の有効利用に積極的に取り組んだ。今後、博物館本来の業務に支障を来さない程度に効率化を図る必要がある。外部委託については、特に問題は認められなかった。</p>
		電気使用量	7,528,640kwh	(前年度比 99.34%)		料金	1億2,196万2,552円																														
水道使用量	51,434m <sup>3</sup>	(前年度比 95.39%)	料金	4,174万2,890円																																	
ガス使用量	858,814m <sup>3</sup>	(前年度比 103.43%)	料金	4,146万7,179円																																	
紙の使用量	6,155kg	(前年度比 95.13%)																																			
廃棄物(一般)	114,555kg	(前年度比 97.90%)																																			
(産廃)	27,770kg	(前年度比 89.00%)																																			
<p>効率化の達成率</p>	<p>1.5%以上</p>	<p>1.0%以上 1.5%未満</p>	<p>1.0%未満</p>	<p>1.00%</p> <p>算式 効率化率 = (見積予算額 - 決算額) ÷ 見積予算額                      = [ (予算額 ÷ 0.99) - 決算額 ] ÷ (予算額 ÷ 0.99)                      = [ (2,768,484,202 ÷ 0.99) - 2,768,484,202 ] ÷ (2,768,484,202 ÷ 0.99) = 0.0100</p> <p>運営費交付金予算額 2,768,484,202円、効率化した額 27,964,487円</p>	<p>B</p>																																

### 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
<p>1 収集・保管</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を図る。また、そのための情報収集を行う。</p> <p>(東京国立博物館)                      日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる美術及び考古資料等を収集する。</p> <p>(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている分野を中心に、寄贈・</p>	<p>文化財の収集(購入・寄贈・寄託)の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。</p>			<p>1.購入 64件(重文1件)</p> <p>2.寄贈 218件(重美1件)</p> <p>3.寄託2,389件(国宝65件、重文334件)</p> <p>4.特記事項                      柔軟な会計制度の利点を生かし13・14年度の予算を合わせて購入した伝雪舟筆「四季花鳥図屏風」は、雪舟展において公開し好評を得た。また、中国・元時代の「青花蓮池文大皿」の購入は、当館のコレクションの質を一層高めたとの評価を受けている。「毘沙門天立像」(重文)を初め218件、寄贈いただいた。このうち173件は小林庸浩氏からの古銅印譜の寄贈である。当館ではすでに横田実氏寄贈の印譜コレクションがあり、今回の小林氏の寄贈を加えることにより、印譜の世界的なコレクションを形成できたものといっても過言ではない。小林氏の寄贈は、「図版目</p>	<p>A</p>	<p>東京国立博物館の収集方針に基づき幅広く文化財を収集し、着実にコレクションの充実を図った。特に、独立行政法人制度のメリットを生かした購入や寄贈で高い成果を上げた。また、寄託については、目標に達しなかったが、前年度から98件が追加された。</p>

<p>寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。</p>			<p>録封泥」(平成10年3月発行)に代表される当館研究員の中国古代の印章に対する研究によるところが大きく、研究員の研究成果が収蔵品充実に繋がることを端的に示した。 当館は従来、古美術商からの寄託は控えていたが14年度より柔軟に対応することとした。その結果、平成13年度に比して98件増加した。これにより陳列の充実が期待される。 今後、作品購入は、柔軟な会計制度を活用し貴重な文化財が散逸することのないよう努める。 寄託は、常設陳列に必要なものを寄託者に働きかけているが、経済事情等により逡巡傾向にあるため実態にあった目標数とする。</p>		
<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く後世へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実に努める観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実に努める。 (2)-2 収蔵品の保存カルテ作成、保存環境の調査等を実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。</p>	<p>保管の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 温湿度 (1) 各施設における温湿度設定値と空調運転時間帯。 1) (冬) 温度22 ±1 (夏) 温度24 ±1 (春・秋) 温度23 ±1 (年間) 湿度55% ±5% 空調実施時間 09:00~17:00 本館・平成館・東洋館の展示会場及び収蔵庫 空調実施時間 24時間運転 法隆寺宝物館の展示会場及び収蔵庫 2) (冬) 温度22 ±1 (夏) 温度25 ±1 (春・秋) 温度24 ±1 (年間) 湿度55% ±5% 空調実施時間 09:00~17:00 表慶館展示会場(通常は閉室) 2. 照明 作品の材質毎に最大照度を設定している。基本的には紫外線をカットした博物館用照明器具を使用している。表慶館展示室のように外光が入射する場合は、窓ガラスに紫外線カットフィルムを貼り付けて対応している。 3. 空気汚染 展示室、収蔵庫それぞれには下記のフィルターを経由した空気が送風されることで汚染空気の流入を予防している。 4. 防災 本館・平成館・東洋館・法隆寺宝物館の展示室及び収蔵庫、表慶館展示室に、熱感知器、煙感知器、消火器、消火柱を設置している。 5. 防犯 本館・平成館・東洋館・法隆寺宝物館の展示室及び収蔵庫、表慶館展示室に、鉄扉(施錠)、鉄製シッター(施錠)、テレビカメラ等の防犯装置を設置している。 6. 保存カルテ作成件数 合計 1,326件(目標 500件) (1) 列品貸与時 885件 (2) 本格修理時 182件 (3) 応急修理時 259件 特記事項 保存カルテは、列品の貸与点検と応急修理の際の点検により、カルテ化が予定数量より進んでいる。 保存カルテ作成件数が増加したのは、所蔵品の貸与が予想外に膨大であったこと。 課題となっていた応急修理作業を本年度から保存修復支援技術者、主に紙質文化財の修理技術を持つ技術者3名が応急修理作業に携わったことによる。</p>	<p>B</p>	<p>保存・修復の専門的な知識を持つ職員を配置し、温湿度や照明などに配慮した適切な保管がされている。 また、保存カルテも着実に作成した。  【より良い事業とするための意見等】 文化財は貴重な国民の財産であるため、今後とも、施設や設備の違いによるきめ細かな環境の整備に努めることが望ましい。</p>
<p>(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。 緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。 長期寄託品等の修理を実施する。 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。 文化財修理・保存処理関係のデータベース化とその公開を実施。 (3)-2 国内外の博物館等の修理、保存処理の充実に寄与する。</p>	<p>修理の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 修理件数182件(うち九博分50件、考古相互活用 14件) 絵画 本格修理 13件 九博 33件 彫刻 本格修理 1件 九博 5件 工芸品 本格修理 24件 九博 2件 書跡典籍 本格修理 4件 九博 2件 考古資料 本格修理 56件 九博 10件 歴史資料 本格修理 20件 九博 10件 2. データベース 154件(目標130件) 特記事項 保存修復事業の活動を多くの人に理解してもらうため本館特別第3・4室で平成14年9月10日~9月29日の間平成13年度修理を施した作品を特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」として公開した。</p>	<p>A</p>	<p>保存・修復の専門的な知識を持つ職員を配置し、緊急を要するものから計画的に、修理業者を指導しながら修理を行った。また、修理データも確実に記録した。 特に、保存修復支援技術者3名を新たに配置し、その強化を図ったことを評価する。 また、中・長期的な修理計画を作成するための調査も開始された。  保存カルテや修理データは、今後の保存・修理の貴重な記録となるため、今後とも確実にを行い、3館共通の規格によるデータベース化も検討することが望ましい。</p>
<p>2 公衆への観覧 (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ各館において魅力ある質の高い常設展・特別展等を実施する。 (1)-2 常設展においては、東京・京都・奈良の国立博物館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究成果を</p>	<p>展示会の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 常設展(展示替 述べ280回) 2. 特別展・共催展 9回 「雪舟」 「韓国の名宝」 「書の巨人 西川寧」</p>	<p>A</p>	<p>東京国立博物館の11万件の収蔵品を5つの施設で展示した大規模な常設展、「雪舟展」など幅広い層を対象とし国民の関心をより強く喚起した企画展、地方にも優れた美術作品を鑑賞する機会を提供した地方巡回展など様々な内</p>

<p>基に、日本の文化や歴史の理解の促進に寄与する展示を実施する。</p> <p>(1)-3 特別展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の博物館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。</p> <p><b>(東京国立博物館)</b> 年3～5回程度 <b>(京都国立博物館)</b> 年2～3回程度 <b>(奈良国立博物館)</b> 年2～3回程度</p> <p>(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。</p> <p>(1)-5 海外交流展については、海外の博物館等と連携を図りながら、国内外の優れた文化財を広く国民に観覧する機会を提供するとともに、日本の文化を海外に紹介し、日本への理解の増進に資する展覧会を実施する。(年1回程度)</p> <p>(1)-6 各館の連携による共同企画展等の実施について検討し推進する。</p> <p>(1)-7 収蔵品の効果的活用、地方における観覧機会の充実を図る観点から、全国の公立博物館等と共催で、地方巡回展を実施する。(年1～2か所程度) なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。</p> <p>(3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。</p>	-		<p>「シルクロード 絹と黄金の道」 「江戸蒔絵 - 光悦・光琳・羊遊齋 -」 「インド・マトウラー彫刻展」 「パキスタン・ガンダーラ彫刻展」 「大日蓮展」 「西本願寺展」(平成15年度評価予定)</p> <p>3. 常設展、特別展・共催展の入館者数 1,046,182人(平成13年度 964,133人)</p> <p>4. 地方巡回展 1回 入館者数8,309人 「日本人の風景表現の展開」展</p> <p>5. 海外交流展 1回 開催国 中国 「西川寧書法芸術展」</p>		<p>容のものをバランス良く行った。</p> <p>また、目標の入館者数約76万人を超える約100万人が観覧し、アンケートでも約9割から「良かった」との回答を得ている。</p> <p>また、ワールドカップ開催期間中、外国人に日本の文化をわかり易く理解してもらうため「日本美術の流れ」展を開催した。</p>
	入館者数	760,000人以上 532,000人以上 532,000人未満	1,046,182人	A	
<p>常設展</p> <p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p> <p>(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。</p> <p>(1)-5 海外交流展については、海外の博物館等と連携を図りながら、国内外の優れた文化財を広く国民に観覧する機会を提供するとともに、日本の文化を海外に紹介し、日本への理解の増進に資する展覧会を実施する。(年1回程度)</p> <p>(1)-6 各館の連携による共同企画展等の実施について検討し推進する。</p> <p>(1)-7 収蔵品の効果的活用、地方における観覧機会の充実を図る観点から、全国の公立博物館等と共催で、地方巡回展を実施する。(年1～2か所程度) なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。</p> <p>(3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。</p>	-		<p>1. 開会期間 318日間</p> <p>2. 会場 本館・東洋館・法隆寺宝物館・平成館・表慶館</p> <p>3. 陳列替数 述べ280回</p> <p>3. 陳列件数 9,625件(うち国宝127件、重要文化財1,145件)</p> <p>本館 4,145件(うち国宝63件、重要文化財513件) 東洋館 2,620件(うち国宝12件、重要文化財156件) 法隆寺宝物館 461件(うち国宝21件、重要文化財306件) 平成館 2,272件(うち国宝29件、重要文化財151件) 表慶館 127件(うち国宝1件、重要文化財18件)</p> <p>*「日本美術の流れ」展のみ開館</p> <p>4. 入場料 一般420円 高・大生130円 一般(団体)210円 高・大生(団体)130円</p> <p>5. アンケート回収数 218件 アンケート結果 良い41.7%, ぶつう36.7%, 良くない21.6%</p>	A	<p>東京国立博物館の方針に基づいて体系的に収集した約11万件の収蔵品(寄託を含む)から、各館の特色や日常的な調査研究の成果を生かして本館・東洋館・法隆寺宝物館・平成館・表慶館で展示した。また、入館者に楽しんでもらえるよう280回もの展示替えや様々なテーマによる特集展示を行うなど工夫をこらし、入館者数を着実に増やした。今後とも、多くの国民に平常展を観覧してもらえよう、効果的な広報を検討することが望ましい。</p> <p>また、ワールドカップ期間中には外国人観光客に対し、入館料を無料にするとともに、日本の文化をわかり易く理解してもらうため「日本美術の流れ」展を開催した。</p>
	陳列替数	180回以上 126回以上 180回未満	280回	A	
	陳列件数	8,000件以上 5,600件以上 8,000件未満	9,625件	A	<p>【より良い事業とするための意見等】 積極的にアンケートを行い、その結果を分析して今後の事業の企画や広報に活用することが望ましい。</p>
<p>共催展</p> <p>「雪舟」</p> <p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	-		<p>1. 開会期間 平成14年4月23日～平成14年5月19日</p> <p>2. 会場 平成館2階</p> <p>3. 共催 毎日新聞社・TBS</p> <p>4. 陳列品総件数 130件(うち国宝8件、重文23件、重美4、外国19件)</p> <p>5. 入場料金 一般1400円 高・大生900円 小・中学生400円</p> <p>6. 展覧会の内容 雪舟の代表作をはじめ、雪舟の前身とされる拙舟の諸作、さらに海外からの里帰り品や初公開・新発見の作品130件により、雪舟の画業を降り返る。</p> <p>7. 講演会 2回、参加者数507人</p> <p>8. アンケート回収数 704件 アンケート結果 とても良い144%, 良い133%, どちらともいえない19%, あまり良くない16%, 良くない6%</p>	A	<p>出品作品の質・量ともに大変充実した優れた展覧会で、国民の関心を喚起し、目標を大きく上回る人々が観覧し、アンケートでも約8割から良いという回答を得た。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 入場制限や開館時間の延長などを行ったが、展示会場に入場者が多すぎて鑑賞しにくい状況が一時みられた。今後とも、展覧会場の広さに応じた入場者数とするため期間指定の招待券や整理券などの工夫を検討し、より良い観覧環境を確保するよう一層努力することが望ましい。</p>
	入館者数	100,000人以上 70,000人以上 100,000人未満	295,968人	A	
<p>共催展</p> <p>「韓国の名宝」</p> <p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	-		<p>1. 開会期間 平成14年6月11日～平成14年7月28日</p> <p>2. 会場 平成館2階</p> <p>3. 共催 韓国国立中央博物館・NHK・NHKプロモーション</p> <p>4. 陳列品総件数 176件(うち国宝29件、宝物23件)</p> <p>5. 入場料金 一般1300円 高・大生900円 小・中学生400円</p> <p>6. 展覧会の内容 新石器時代から20世紀初頭にいたる韓国各時代の美術工芸品176件を展示し、韓国の文化史を通観する。</p> <p>7. 講演会 2回、参加者数560人</p> <p>8. アンケート回収数 286件 アンケート結果 とても良い42%, 良い40%, ぶつう13%, あまり良くない13%, 良くない12%</p>	A	<p>韓国の名品を集めた、質の高い展覧会であった。しかし、出品作品が各ジャンルに亘り散漫な印象を与えたため、テーマを絞った方がより効果的であったように思われる。目標入館者数に僅かに届かなかったが、アンケートでは8割以上から「良かった」との回答を得ている。</p> <p>また、日韓交流年の企画として国際交流に貢献した。</p>
	入館者数	100,000人以上 70,000人以上 100,000人未満	96,462人	B	
<p>共催展</p> <p>書の巨人「西川寧</p> <p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	-		<p>1. 開会期間 平成14年7月30日～平成14年8月25日</p> <p>2. 会場 表慶館</p> <p>3. 共催 読売新聞社</p>	A	<p>地味なテーマであったが、作家の全貌をわかりやすく紹介した優れた展覧会であった。また、普段見ることのな</p>



				<p>企画協力 謙慎書道会</p> <p>4. 陳列品総件数 77件</p> <p>5. 入場料金 一般1000円 高・大生700円 小・中学生 無料</p> <p>6. 展覧会の内容 西川寧の代表作77件を展示し、その足跡をたどりながら西川寧が目指し表現した書の世界の魅力を鑑賞する。</p> <p>7. 講演会 1回、参加者数420人</p> <p>8. アンケート回収数 386件 アンケート結果 とても良い61%、良い29%、ふつう9%、あまり良くない11%</p>		<p>い草稿を展示するなど貴重な機会を提供した。</p> <p>また、目標を上回る人々が観覧し、アンケートでも9割から「良かった」との回答を得ている。</p>	
	入館者数	30,000人以上	21,000人以上 30,000人未満	21,000人未満	34,164人	A	
共催展 「シルクロード 絹と黄金の道」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。				<p>1. 開会期間 平成14年8月20日～平成14年10月6日</p> <p>2. 会場 平成館2階第3～4室</p> <p>3. 共催(社) 日中友好協会、中華人民共和国新疆ウイグル自治区文物局、NHK、NHKプロモーション</p> <p>4. 陳列品総件数 176件(うち一級文物52件)</p> <p>5. 入場料金 一般1300円 高・大生900円 小・中学生400円</p> <p>6. 展覧会の内容 中華人民共和国新疆ウイグル自治区で発見された。BC8世紀からDC12世紀ころまでの美術工芸の優品176件を展示し、約2千年にわたって花開いたシルクロード沿いの文化を紹介する。</p> <p>7. 講演会 1回、参加者数400人</p> <p>8. アンケート回収数 225件 アンケート結果 とても良い43%、良い38%、ふつう14%、あまり良くない14%、良くない11%</p> <p>特記事項 特別展「江戸蒔絵 - 光悦・光琳・羊遊齋 - 」と同時開催</p>	A	<p>日中国交正常化30周年を記念してシルクロードの文化を日本に紹介したもので、美術的価値だけでなく、文化交流の資料としても価値があった。</p> <p>また、目標を上回る人々が観覧し、アンケートでも8割以上から「良かった」との回答を得ている。</p>
	入館者数	100,000人以上	70,000人以上 100,000人未満	70,000人未満	115,915人	A	
特別展 「江戸蒔絵 - 光悦・光琳・羊遊齋」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。				<p>1. 開会期間 平成14年8月20日～平成14年8月20日</p> <p>2. 会場 平成館2階第1～2室</p> <p>3. 主催 東京国立博物館</p> <p>4. 陳列品総件数 151件(うち国宝8件、重文7件、外国4件)</p> <p>5. 入場料金 一般420円 高・大生130円 小・中学生 無料</p> <p>6. 展覧会の内容 江戸時代に完成の域に達した蒔絵の技法による代表的な作品151件を展示し、精緻で華麗な江戸蒔絵の真髄に触れる。</p> <p>7. 講演会 秋期講座 2日間、参加者数344人</p> <p>8. アンケート回収数 182件 アンケート結果 とても良い53%、良い33%、ふつう12%、あまり良くない12%</p>	A	<p>研究者の研究成果が生かされた華やかな展覧会で、日本工芸の偉大な伝統を改めて認識させられた。</p> <p>館が企画・経費・会場等全てに責任を持って行う特別展としては、過去の実績をはるかに超える人々が観覧し、アンケートでも8割以上から「良かった」との回答を得ている</p>
	入館者数	50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	126,522人	A	
共催展 「インド・マトゥラー彫刻展」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。				<p>1. 開会期間 平成14年10月29日～平成14年12月15日</p> <p>2. 会場 平成館2階第3～4室</p> <p>3. 主催 NHK、NHKプロモーション 共催 外務省・インド文化省</p> <p>4. 陳列品総件数 40件</p> <p>5. 入場料金 一般1300円 高・大生900円 小・中学生400円</p> <p>6. 展覧会の内容 古代インド彫刻の名品40件を展示し、インド彫刻の特質を展観する。</p> <p>7. 講演会 1回、参加者数400人</p> <p>8. アンケート回収数 247件 アンケート結果 とても良い47%、良い44%、ふつう7%、あまり良くない11%、良くない11%</p> <p>特記事項 「パキスタン・ガンダーラ彫刻展」と同時開催</p>	A	<p>日本・インドの国交樹立50周年を記念した展覧会で、1世紀頃に仏像が初めて作られたマトゥラーの作品を中心に展示した。また、同時期に同じく仏像が作られるようになったガンダーラ展と同時開催することによって、その時代の仏教美術の理解を深める意義ある展覧会となった。また、照明を含め展示方法も良かった。</p> <p>なお、目標を上回る人々が観覧し、アンケートでも9割以上から「良かった」との回答を得ている。</p>
	入館者数	50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	78,978人	A	
共催展 「パキスタン・ガンダーラ彫刻展」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。				<p>1. 開会期間 平成14年10月29日～平成14年12月15日</p> <p>2. 会場 平成館2階第1～2室</p> <p>3. 主催 NHK、NHKプロモーション 共催 外務省・インド文化省</p> <p>4. 陳列品総件数 48件(うち特別出品12件)</p> <p>5. 入場料金 一般1300円 高・大生900円 小・中学生400円</p> <p>6. 展覧会の内容 パキスタン・ガンダーラの代表的な彫刻の名品40件近くと、東京国立博物館調査隊が現地で見つけた12件の遺物を展示し、ガンダーラを中心とする古代パキスタンの特質を通観する。</p> <p>7. 講演会 1回、参加者数400人</p>	A	<p>日本・パキスタンの国交樹立50周年を記念した展覧会で、1世紀頃に仏像が初めて作られたガンダーラの作品を中心に展示した。また、同時期に同じく仏像が作られるようになったマトゥラー展と同時開催することによって、その時代の仏教美術の理解を深める意義ある展覧会となった。また、照明を含め展示方法も良かった。</p> <p>なお、目標を上回る人々が観覧し、</p>

				8. アンケート回収数 247件 アンケート結果 とても良い47%、良い44%、ふつう7%、あまり良くない11%、良くない11% 特記事項 「インド・マトゥラー彫刻展」と同時開催		アンケートでも9割以上から「良かった」との回答を得ている。	
	入館者数	50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未	78,978人	A	
	共催展 「大日蓮展」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 開会期間 平成15年1月15日～平成15年2月23日 2. 会場 平成館2階 3. 主催 日蓮聖人門下連合会、産経新聞社 4. 陳列品総件数 161件(うち国宝4件、重文47件、重美3件) 5. 入場料金 一般1300円 高・大生900円 小・中学生400円 6. 展覧会の内容 日蓮宗の寺院に伝わる日蓮ゆかりの品々をはじめ、法華信仰にまつわる美術品、さらに宗門に帰依した芸術家たちの作品161件を取り上げ、日蓮及び日蓮宗の美術を総合的に紹介する。 7. 講演会 2回、参加者数1364人 8. アンケート回収数 266件 アンケート結果 とても良い52%、良い36%、ふつう10%、あまり良くない11%、良くない11% 特記事項 展覧会事前調査の段階で、いくつかの貴重な作品が新たに発見された。	A	これまであまり展示されることのなかった日蓮諸宗の寺院の宝物を観覧する貴重な機会を提供した。また、この展覧会のための調査研究により、長谷川等伯の「鬼子母神十羅刹女像」を新たに発見したことも評価する。 なお、目標を大きく上回る人々が観覧し、アンケートでも約9割から「良かった」との回答を得ている。
	入館者数	80,000人以上	56,000人以上 80,000人未満	56,000人未	152,471人	A	
	地方巡回展 「日本人の風景表現の展開」展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 開会期間 平成15年1月4日～平成15年2月16日 2. 会場 岡崎市美術館 3. 主催 東京国立博物館、東京国立近代美術館、岡崎市、中日新聞社 4. 陳列品総件数 57件(うち重文6件、重美2件) 5. 入場料金 一般800円 小人400円 6. 展覧会の内容 独立行政法人国立博物館・国立美術館が所蔵する美術工芸品の中から、風景に関わる作品を集め、日本人の自然観などをたどる。 7. 講演会 東京国立博物館絵画室長 田沢裕賀 参加者 50名 8. 特記事項 当館からは、歌川広重「東海道五拾三次」他出品	A	地方においても国立博物館の優れた文化財を観覧する機会を提供した。また、開催館の要望を尊重したことも評価する。  【より良い事業とするための意見等】 今後も、開催館の要望にできるだけ応え開催館の研究者と協力して質の高い展覧会を開催することが望ましい。 平成12年度の実績を目標としているが、展覧会毎に目標を立てることが望ましい。
	入館者数	5,603人以上	3,922人以上 5,603人未満	3,922人未	8,309人	A	
(2)-1 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設に対し、貸与及び特別観覧を積極的に推進する。 (2)-2 国立博物館及び公私立博物館が所蔵する考古資料を相互に貸借し、歴史的・考古学的に体系的・通史的な展覧会を実施する。	貸与・特別観覧の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 特別観覧件数 貸与 1241件 特別観覧 2580件 2. 考古相互貸借 貸与件数 88件 借用件数 16件	A	公私立の博物館等に対して、文化財の貸与や特別観覧を行い、広く国民へ公開することに貢献した。  【より良い事業とするための意見等】 今後も、貸与等の要望が増えると思われるが、文化財の保管状態や自館での展示計画に留意し、貸与要望の主旨を考慮しながら、幅広く応えることが望ましい。 また、貸与・特別観覧の料金は、国の施設等機関であった頃の使用料に準拠しているが、今後、使用者やその目的などを勘案し、提供するサービスに見合った使用料や対応を検討することが望ましい。
	貸与件数	1,100件以上	770件以上 1,100件未満	770件未	1,241件	A	
	特別観覧の件数	2,000件以上	1,400件以上 2,000件未満	1,400件未	2,580件	A	
<b>3 調査研究</b> (1)-1 調査研究が収集・保管・修理・展示、教育普及その他の博物館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる各館の方針に従い、調査研究を積極的に実施する。 <b>(東京国立博物館)</b> 日本の文化財及び日本の文化に影響を与えた東洋諸地域の文化財の調査研究を実施する。 法隆寺献納宝物に関する調査研究を実施する。長期的な修理計画を策定するためのX線、赤外線写真等光学的データのデジタ	調査研究の実施状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 調査研究 法隆寺献納宝物特別調査 聖徳太子絵伝下貼文書の調査研究の実施 民俗資料の調査 資料課保管の歴史資料の調査研究と整理 (1) 徳川本のデータベース作成・時代調査 (2) 江戸・幕末期写真資料の調査 (3) 熊谷直彦(明治初期の日本画家)下絵調査 (4) 帝室博物館版板木(『本草綱目啓蒙』『君台観左右帳記』他)の整理・調査。 (5) 本草書・博物書(江戸時代和書)の基本データおよび目録作成(客員研究員との共同研究) (6) 『正親町家文書』(平成12年度寄贈品)に関する基本データと目録作成(客員研究員との共同調査研究) (7) 『横田印譜』の調査(高山二松学舎大学教授との共同調査) (8) 金石文拓本の分類・名称の確定と内容調査およびデータベース作成(客員研究員との共同調査研究) (9) 『宸翰英華』編纂関係資料などの整理と確認調査。(ガラス乾板)の調査。 (10) 科学研究費の研究成果公開促進費(データベース)を活用し以下の調査研究を実施した。	A	収蔵品や展覧会に関する調査研究は着実に行われ、文化財の収集、展覧会及び図録の刊行などに成果を上げた。 その他にも、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得や外部の研究者との連携・協力により、充実した調査研究が行われた。  【より良い事業とするための意見等】 研究成果を積極的に公開し、学会等にも発表することが望ましい。

<p>ル画像処理システムの開発を行い、将来的に文化財保存カルテ等作成に利用できるデータベースの構築を目指す。</p> <p>館所蔵模写模本類による原品復元に関する調査研究を行う。</p> <p>(京都国立博物館) 京都文化を中心とした文化財の調査研究を計画的に実施する。 神と仏の思想的交流と造形に関する調査研究を実施する。 修復文化財に関する調査研究を実施する。</p> <p>(奈良国立博物館) 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施する。 仏教美術写真収集及びその調査研究を行う。</p> <p>(1)-2 国内外の博物館・美術館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。</p> <p>(2) 調査研究の成果については、展覧会、文化財の収集等の博物館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネット等を活用して広く情報を発信し、博物館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>					<p>イ 明治期の文化財調査報告書『宝物目録』に関する「宝物目録データベース」</p> <p>ロ 明治から昭和初期に撮影された文化財を被写体としたガラス乾板に関する「貴重原版の文化財画像情報システム」</p> <p>ハ 『東京帝室博物館和漢書分類目録』『事務参考図書と書番号順目録』(写本,大正年間作成)等のデータベース作成</p> <p>2. 展覧会のための調査研究 本年度開催された「雪舟」、「韓国の名宝」、「シルクロード」、「江戸蒔絵」、「インド・ガンダーラ彫刻」、「大日蓮」、「西本願寺」において、各特別展担当の研究員が国内外の作品調査を実施し、その研究成果を展示および図録の論文・解説等に反映させた。 特に「大日蓮展」では長谷川等伯の「鬼子母神十羅刹女像」(妙伝寺蔵)を新たに発見するという成果を上げ『MUSEUM』,学会等での発表も行った。</p> <p>3. 保存・修理に関する調査研究 光学的手法を用いた文化財の構造調査における画像処理システムの開発を実施した。これまでに撮影されたX線フィルムのデジタル化を順次進め、分割撮影した画像のデジタル合成技術の確立を目標にフィルム画像のデジタル化を一部実施した。デジタル合成の技術に関しては、基本ソフトの選定を進めた。</p> <p>4. 科学研究費補助金等による調査研究 (1) 科学研究費補助金による調査研究 特定領域研究(2)「絵画及び器物における彩色・装飾技術に関する技術移転の実態と独自性発生の機構」(企画部保存修復課長 神庭 信幸)ほか14件の課題についての調査研究を実施した。 (2) その他の研究補助金による調査研究 (なら・シルクロード財団) 「中国・シルクロードにおける舍利荘嚴の形式変遷に関する調査研究」学芸部工芸課金工室長 加島 勝</p> <p>5. 客員研究員等の招聘による共同研究 (1) 客員研究員 客員研究員を招聘し『東京国立博物館のサイン計画に関する調査研究』(長谷高史デザイン事務所代表 長谷 高史)ほか17件の課題についての共同研究を実施した。 (2) 海外研究者との交流 李源福氏(韓国国立中央博物館美術部長)と当館所蔵の朝鮮時代の朝鮮絵画約100点の筆者や制作年代に関する共同研究を実施したほか、5名の海外研究者等の共同研究を行った。</p> <p>6. シンポジウムの開催 2回</p>		
<p><b>4 教育普及</b></p> <p>(1)-1 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。</p> <p>(1)-2 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。</p> <p>(3)-3 美術図書等の閲覧施設を研究者中心から一般へと利用の拡大を図り、生涯学習の場とする。</p> <p>(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、図版目録、展覧会目録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立博物館への理解の促進を図る。 また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、3館共同による広報体制の在り方について検討を行う。</p> <p>(5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。</p> <p>(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、文化財情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。 また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	<p>博物館に関する情報の収集及び公開の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(1)-1 資料の収集及び公開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収集 収集件数 写真原板：8,581枚, 図書：2,671冊, マイクロフィルム：104巻</li> <li>・公開 公開場所 資料館(1階閲覧室) 公開件数 利用者数：4,110人 開架図書閲覧：3,079件 古文書資料等のマイクロフィルムによる閲覧：400件</li> </ul> <p>(1)-2 デジタル化の状況 収蔵品等の写真の高精細デジタル化：20,000枚 収蔵品の基本情報のデータ化・文書記述言語(SGML)化：5,107,779字</p> <p>(5)-1 広報活動の状況 博物館ニュース(発行回数6回,発行部数 各9,700) その他リーフレット・パンフレット類 5種 総発行部数356,100 図版目録 2種,展覧会目録12種,研究論文1種,調査報告書2種</p> <p>(5)-2ホームページのアクセス件数 1,416,990人(目標783,320件)</p> <p>(5)-3デジタル情報の有料提供については、(6)-2参照</p>	<p>8,581件</p> <p>6回</p> <p>20,000枚</p> <p>5,107,779件</p> <p>1,416,990件</p>	<p><b>A</b></p>	<p>資料の収集・公開、各種広報誌の発行、収蔵品のデジタル化など計画どおり着実に実施した。 新たに、電子メールサービス、TNMイメージアーカイブなどサービスの向上を図った。 また、ホームページは、展覧会の情報等の充実を図り、アクセス件数を伸ばした。 東京国立博物館の全ての国宝を高精細画像でデジタル化し館内及びホームページで公開した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 収蔵品のデジタル化やその公開については、より一層の取組が望まれる。 資料館を多くの国民が利用できるよう、館内の案内表示や広報を積極的に行うことが望ましい。</p>	
	<p>客員研究員招聘人数</p>	<p>28人以上</p>	<p>20人以上 28人未満</p>	<p>20人未満</p>	<p>32人</p>	<p>A</p>	
	<p>研究員派遣</p>	<p>2人以上</p>	<p>1人</p>	<p>0人</p>	<p>2人</p>	<p>A</p>	
	<p>研究誌(MUSEUMの発行)</p>	<p>6回</p>	<p>4回以上 6回未満</p>	<p>4回未満</p>	<p>6回</p>	<p>A</p>	
	<p>情報及び資料の収集</p>	<p>3,000件以上</p>	<p>2,100件以上 3,000件未満</p>	<p>2,100件未満</p>	<p>8,581件</p>	<p>A</p>	
	<p>出版件数</p>	<p>6回以上</p>	<p>4回以上 6回未満</p>	<p>4回未満</p>	<p>6回</p>	<p>A</p>	
	<p>収蔵品等のデジタル化件数</p>	<p>12,000枚以上</p>	<p>8,400枚以上 12,000枚未満</p>	<p>8,400枚未満</p>	<p>20,000枚</p>	<p>A</p>	
	<p>ホームページのアクセス件数</p>	<p>783,320件以上</p>	<p>548,324件以上 783,320件未満</p>	<p>548,324件未満</p>	<p>1,416,990件</p>	<p>A</p>	



<p>(2)-1 次に掲げる各館の方針に従い、新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした文化財解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、文化財等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。</p> <p>また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p><b>(東京国立博物館)</b> 児童生徒を対象とした文化普及事業及び文化財とのふれあい事業を実施し、教育普及の推進を図る。 中・高校生を対象とした総合学習としての職場体験学習及び大学等を対象としたインターンシップの受入れを実施する。</p> <p><b>(京都国立博物館)</b> 小中学生学習プログラム等について検討、実施する。</p> <p><b>(奈良国立博物館)</b> 親と子の文化財教室を実施し、児童生徒に対する教育普及の促進を図る。 修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成、解説等について検討、実施する。</p> <p>(3)-1 文化財に関する情報について正しく後世に伝えるとともに、その理解を深めるような講演会、講座及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。 それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。 また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。</p> <p>(3)-2 友の会活動を通じて、文化財に接する機会を増やし、より充実した学習の場を提供する。</p>	<p>講座・講習会等の実施状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(2)-1 児童生徒を対象とした事業 こどもミュージアム 2件 児童・生徒を対象とした美術鑑賞講座 17回(3テーマ) 児童・生徒を対象とした美術体験講座 27回(3テーマ)</p> <p>(3)-1 講演会等の事業 講演会 26回(月例講演会 15回 記念講演会11回) 秋期講座 1回(2日間) 公開講座 15回(5テーマ) 列品解説 49回</p> <p>(3)-2 友の会活動 会員数 9,649人</p>	<p>A</p>	<p>児童生徒を含む多くの人々を対象とした講演会や友の会の活動などを計画どおり着実に実施した。</p> <p>特に、「こどもミュージアム」や美術鑑賞講座など児童生徒を対象とした活動に積極的に取り組んだ。</p> <p><b>【より良い事業とするための意見等】</b> 外部の専門家の協力を得るなどして、国立博物館としてふさわしい事業を検討することが望ましい。 一般観覧者にも配慮しつつ、展示会場内で学校の教員等が解説できる方策を検討することが望ましい。</p>
<p>(4)-1 博物館・美術館関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。</p> <p>(4)-2 全国の公私立博物館等の学芸担当職員(キュレーター)の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。</p> <p>(4)-3 公私立博物館・美術館等の展示会の企画に対する援助・助言を推進する。</p> <p>(4)-4 公私立博物館・美術館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報</p>	<p>研修等の取組み状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>研修等</p> <p>1. キュレーター実務研修 研修期間 平成15年1月7日～3月16日(34日間) 開催場所 東京国立博物館保存修復課・美術課・事業課 参加者数 1名 吉井隆雄 光記念館学芸員(岐阜県)</p> <p>2. 学校教員研修 研修期間 平成15年8月17日～8月19日(3日間)、8月20日～8月21日(2日間) 開催場所 東京国立博物館教育普及課 参加者数 3名(台東区立大正小学校2名 東京都立国際高等学校 1名)</p> <p>3. 特記事項 国際交流の推進のためオランダ文部省派遣留学生制度「日本研究プログラム」研究生1名を受け入れた。</p>	<p>A</p>	<p>学芸担当職員や教員への研修、博物館実習生の受入れ、ボランティアの活用など計画どおり着実に実施した。</p> <p>特に、ボランティアの活用に積極的に取り組んだことを評価する。</p> <p><b>【より良い事業とするための意見等】</b> 公私立の博物館では学芸員を長期間派遣するだけの余裕がないため、研修プログラムを再検討することが望ましい。 ボランティア等として、大学生・大学</p>

<p>交換、人的ネットワークの形成に努める。</p> <p>(4)-5 大学等と連携し、大学院生や大学生を受け入れ、文化財に関する実習等について検討、実施する。</p> <p>(6)-1 ボランティア希望者に対し、そのニーズに応える研修を実施し、参加者の拡大を図る。ボランティアは登録を行い、連携協力して展覧会での解説など、国立博物館が提供するサービスの充実を図る。</p> <p>なお、ボランティアの受け入れについては、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の延人数の確保に努める。</p>		<p>ボランティアの受入件数</p>	90人以上	63人以上 90人未満	63人未満	<p>大学等の連携</p> <p>1. 博物館実習生、参加者数 16人(11大学)</p> <p>2. インターンシップ(2回に分けて実施)参加者数 合計11人(10大学)(第1回:1人(1大学)第2回:10人(9大学))</p> <p>3. 大学の授業等の見学対応、参加者数 139人(4大学)</p> <p>ボランティア</p> <p>1. 生涯学習ボランティア 登録人数 156人</p> <p>2. 国際交流ボランティア 登録人数 60人</p> <p>3. ジュニア文化ボランティア 登録人数 62人</p> <p>4. 教員ボランティア 登録人数 29人</p>	307人	A	<p>院生の活用も検討することが望ましい。</p>
<p>(6)-2 企業との連携等、国立博物館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討する。</p>	渉外活動の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。				<p>1. 旅行会社主催の外国人ツアーを受け入れ、館内のガイドに協力した。</p> <p>2. 大日本印刷株式会社(DNP)と画像データ使用の許諾契約を締結しデジタル画像の有料提供を開始し当館所蔵作品の商用利用の拡大を図った。</p> <p>3. 東京国立博物館賛助会員制度を設け、特別会員22団体、維持会員10団体・個人10人に加入いただいた。</p> <p>4. 文化交流に基づいたイベントへの当館施設の有効利用の推進 7件</p> <p>5. 地域事業への参加協力 2件</p>	A	<p>企業との連携による文化財のデジタル画像等の販売、賛助会員制度の創設、各種イベント・コンサートの開催などの渉外活動を積極的に行い、成果を上げた。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後も、引き続き積極的に行うことが望ましい。</p>	
<p><b>6 その他の入館者サービス</b></p> <p>(1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。</p> <p>(1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。</p> <p>(1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に行い、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な博物館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる博物館となるよう努力する。</p>	その他の入館者サービスの状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。				<p>1. 意見箱、ホームページ投書欄による意見を踏まえ、改善を図る。</p> <p>2. 快適な観覧環境を提供するための展示施設プログラムに関する調査、検討を行う。博物館の環境整備を検討する場を設けるため外部有識者も交えたプロジェクトチームを立ち上げた。</p> <p>3. 音声ガイドによる解説の充実、ハイビジョンによる画像放映</p> <p>貸出期間：平成14年4月23日から平成15年3月31日の間の7特別展において合計232日間貸出を実施</p> <p>貸出件数：総計100,689件の貸出を行った。</p> <p>ハイビジョンによる画像の放映は、平成館で行われた特別展全てについて行った。これは、観覧者が展示を見る前に展示のコンセプトを理解するのに大いに役立っている。</p> <p>4. 法隆寺宝物館におけるデジタルアーカイブによる展示解説(5ヶ国語)を継続実施する。法隆寺宝物館のほか本館、東洋館においてデジタルアーカイブによる展示解説(5ヶ国語)を継続し実施した。</p> <p>5. 開館日・開館時間の弾力的運用等により利用者のサービス向上に努める。</p> <p>夜間開館の開催日数 22日、入館者数 15,943人、実施日は、平成14年4月～9月の特別展開催時の毎週金曜日(4月26日、5月3日・10日・17日、6月14日・21日・29日、7月12日・19日・26日、8月2日・9日・16日・23日・30日、9月6日・13日・20日・27日、10月4日・5日)なお、10月4日・5日は東京芸術大学のインスタレーション「まだ白く、もう白い」の関連事業に協力して20時まで開館とした。</p> <p>開館日は、ゴールデンウィーク期間中の月曜日、夏休み期間中の月曜日を閉館し、年末年始のうち12月26日から28日、1月2日・3日も閉館して閉館日を増やした。</p> <p>また、人気のあった展覧会では、開館時間の繰り上げや閉館時間の繰り下げを行い臨機に対応した。</p> <p>6. 常設展の観覧料金の低廉化を図る</p> <p>平成14年4月より学校の週5日制による学校教育活動に考慮し小・中学生の平常展入場料を無料とした。(小・中学生平常展入場者数は、13年度に比して約5600人増加した)</p>	A	<p>小・中学生の平常展料金の無料化、開館日の増、柔軟な開館時間の設定、茶室の貸出し、オムツ交換台の設置など入館者サービスの向上に努めた。</p> <p>サッカーのワールドカップ開催期間中は、外国人観光客に対し平常展の観覧料金を無料にするとともに、「日本美術の流れ展」を開催するなど、日本文化の理解促進に貢献した。</p>	

## 【京都国立博物館】

### 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>(1) 各博物館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p>	効率化の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			<p>1. 業務の一元化(本部): 共済組合事務、損害保険契約事務、情報公開制度事務、給与システムの一元化</p> <p>2. 省エネルギー等(リサイクル): 管理部門を中心とした光熱水費等の基幹的維持経費の削減として、廊下の消灯、トイレ退室時の消灯、冷暖房の入室時のみON、冷房使用時の温度設定等業務に支障のない範囲において徹底して実施することとした。しかしながら、昨年度より総施設面積・開館日数・総入館者数の増加に伴って、光熱水量、廃棄物処理量、紙の使用量などが前年度を上回った。</p> <p>3. 施設の有効利用</p> <p>講堂については、展覧事業に関連した講座での利用や外部の研修会等への貸付による有効活用を図った。また、茶室を改修し、来館者に公開するとともに、茶会等の利用による有効活用を図った。</p> <p>4. 外部委託</p> <p>(1) 非常用発電機設備保守業務 (12) 電話設備装置保守業務</p> <p>(2) 非常用蓄電池設備点検業務 (13) 消防用設備保守業務</p> <p>(3) 電気工作物保守点検業務 (14) 非常放送設備保守業務</p> <p>(4) 建物環境測定業務 (15) 非常警報通報装置保守業務</p> <p>(5) 簡易専用水道管理業務 (16) エレベータ設備保守業務</p>	B	<p>多くの人々が展覧会を観覧し、事業の充実を図るなど、より多くの経費を必要とする中で、京都国立博物館の業務全般について施設の有効利用や一般競争入札等に努力し1%の効率化を図った。</p> <p>今後も、博物館本来の業務に支障を来たさない程度に効率化を図る必要がある。</p> <p>外部委託については、特に問題は認められなかった。</p>

(4) 外部委託の推進 (5) 事務のO A化の推進 (6) 積極的な一般競争入札を導入 2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。				(6) 簡易専用水道(貯水槽)清掃業務 (7) 庭園環境整備(剪定作業)業務 (8) 庭園環境整備(除草作業)業務 (9) 茶室管理業務 (10) 空調設備等運転監視業務 (11) 空調設備用制御システム保守業務 (17) ボイラー設備性能検査点検保守業務 (18) 冷凍機設備点検保守業務 (19) 高圧ガス、圧力容器設備点検保守業務 (20) 危険物点検保守業務 (21) クレーン設備性能検査点検保守業務 (22) 夜間警備業務(1名)	B
	5. O A化：これまで各館独自の給与システムから、3館共通の給与システムを構築し、業務の効率化を図った。 6. 一般競争入札：一般競争入札については、広く競争への参加の機会を与えるとともに、経費の節減を図るため、可能な限り積極的に一般競争契約の導入を推進した。 7. 運営委員会、外部評価委員会の開催(本部) 評議員会・文化財修理所運営委員会・運営会議(京博) (1) 評議員会 開催回数 2回 (2) 文化財保存修理所運営委員会 開催回数 1回 (3) 運営会議 開催回数 22回 8. 特記事項：職員の資質の向上を図るための各種研修会等を積極的に実施した。	効率化の達成率 1.5%以上 1.0%以上 1.5%未満 1.0%未満 1.00% 算式 効率化率 = (見積予算額 - 決算額) ÷ 見積予算額 = [ (予算額 ÷ 0.99) - 決算額 ] ÷ (予算額 ÷ 0.99) = [ (1,080,972,782 ÷ 0.99) - 1,080,972,782 ] ÷ (1,080,972,782 ÷ 0.99) = 0.0100 運営費交付金予算額 1,080,972,782円、効率化した額 10,918,917円			

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
<b>1 収集・保管</b> (1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を図る。また、そのための情報収集を行う。 <b>(京都国立博物館)</b> 京都文化を中心とした美術及び考古資料等を収集する。 (1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている分野を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。	文化財の収集(購入・寄贈・寄託)の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	1. 購入 16件 (うち重要文化財 1件) 2. 寄贈 15件 (うち重要美術品 1件) 3. 寄託 6,140件(うち国宝 84件、重要文化財 642件)	A	京都国立博物館の収集方針に基づき文化財を収集し、着実にコレクションの充実を図った。 特に、海外流失の恐れがあった岩佐又兵衛の「堀江物語絵巻」を購入したことを評価する。		
	寄託件数	6,000件以上	4,200件以上 6,000件未満	4,200件未満	6,140件	A	
(2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く後世へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。 (2)-2 収蔵品の保存カルテ作成、保存環境の調査等を実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。	保管の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	1. 温湿度 (1) 本館 展示会場(空調実施時間 9:00~18:00(特別な場合は、24時間空調を実施)) 温度 22 湿度 57~60% 収蔵庫(空調実施時間 9:00~17:30) 冬季: 温度 18~20 湿度 56~58% 夏季: 温度 20~22 湿度 56~58% (2) 常設展棟 展示会場(空調実施時間 9:00~17:30) 1階 冬季: 温度 22 湿度 58~61% 夏季: 温度 24 湿度 58~61% 2階 冬季: 温度 22 湿度 58~60% 夏季: 温度 24 湿度 58~60% 収蔵庫(空調実施時間 9:00~17:30) 2階・3階 冬季: 温度 18~20 湿度 56~58%、夏季: 温度 20~22 湿度 56~58% M2階 冬季: 温度 18~20 湿度 58~60%、夏季: 温度 20~22 湿度 58~60% 地階 冬季: 温度 18~20 湿度 56~58%、夏季: 温度 20~22 湿度 56~58% 北収蔵庫(空調実施時間 9:00~17:30) 温度 20 湿度 60% 東収蔵庫(空調実施時間 9:00~17:30) 温度 20 湿度 60% 文化財保存修理所(空調実施時間 9:00~17:30) 冬季: 温度 20 湿度 58~60%、夏季: 温度 22 湿度 58~60% 2. 照明: 展示ケース及び収蔵庫は、専用の蛍光灯を使用 3. 空気汚染: 定期的にフィルターを交換。常設展棟ではビル管理法に基づく測定を2ヶ月ごとに実施(温度、湿度、CO2、騒音、風速、塵埃) 4. 防災: 自動火災報知器で24時間監視 5. 防犯: 赤外線レーザー、赤外線人感センサー、テレビカメラで24時間監視 6. 特記事項 保存カルテ作成件数 147件 東収蔵庫における空調は、常設展棟の建て替えのための作品移転に伴う調整運転を実施している。	A	温湿度や照明などに配慮した適切な保管がされている。 また、保存カルテも着実に作成した。 【より良い事業とするための意見等】 文化財は貴重な国民の財産であるため、外部の研究者の協力を得るなどして、より良い保存環境の整備に努めることが望ましい。		

<p>(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。 緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。 長期寄託品等の修理を実施する。 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。 文化財修理・保存処理関係のデータベース化とその公開を実施。</p> <p>(3)-2 国内外の博物館等の修理、保存処理の充実に寄与する。</p>	<p>修理の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 絵画 8件 書跡 2件 彫刻 2件</p> <p>2. 特記事項 資料のデータベース化については、効率的な作業のもとに、より多くのデータベース化に努めた。 国内外の博物館等・修理業者への指導 ・定期的に各工房への巡回を行い、適切な指導を行った。 ・(財)日本国際協力センターによる「文化財修復整備技術コース」研修会での指導</p>	<p>A</p>	<p>緊急を要するものから計画的に、修理業者を指導しながら修理を行った。また、修理データも確実に記録した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 保存カルテや修理データは、今後の保存・修理の貴重な記録となるため、今後とも確実にを行い、3館共通の規格によるデータベース化も検討することが望ましい。</p>
<p><b>2 公衆への観覧</b></p> <p>(1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ各館において魅力ある質の高い常設展・特別展等を実施する。</p> <p>(1)-2 常設展においては、東京・京都・奈良の国立博物館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の文化や歴史の理解の促進に寄与する展示を実施する。</p> <p>(1)-3 特別展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 なお、実施にあたっては、国内外の博物館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。</p>	<p>展覧会の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 常設展(陳列替58回、特別展観1回、特別陳列7回)</p> <p>2. 特別展・共催展 4回 「雪舟」展(13年度評価済) 「京都最古の禅寺 建仁寺」 「日本人と茶」 「大レンブラント」</p> <p>3. 海外交流展 1回 入館者数 11,611人 「日本からの美のたよ り展」</p> <p>4. 地方巡回展 1回 入館者数 4,444人 「水辺の風景」</p> <p>5. 常設展、特別展・共催展入館者数 642,391人(平成13年度 360,457人)</p>	<p>A</p>	<p>京都国立博物館の特色や日常的な調査研究の成果を生かした常設展、「大レンブラント展」など幅広い層を対象とし国民の関心をより強く喚起した企画展、国内外に優れた美術作品を鑑賞する機会を提供した地方巡回展・海外交流展など様々な内容のものをバランス良く行った。 また、目標の入館者数約30万人を超える約64万人が観覧し、アンケートでも約8割から「良かった」との回答を得ている。</p>
<p><b>(東京国立博物館)</b> 年3～5回程度</p> <p><b>(京都国立博物館)</b> 年2～3回程度</p> <p><b>(奈良国立博物館)</b> 年2～3回程度</p> <p>(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。</p> <p>(1)-5 海外交流展については、海外の博物館等と連携を図りながら、国内外の優れた文化財を広く国民に観覧する機会を提供するとともに、日本の文化を海外に紹介し、日本への理解の増進に資する展覧会を実施する。(年1回程度)</p>	<p>常設展</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開会期間 316日間</p> <p>2. 会場 常設展棟 1階、2階</p> <p>3. 陳列品総件数 2,130件(うち国宝 56件、重要文化財 280件)</p> <p>4. 入場料金 大人420円(団体210円)、大・高生130円(団体70円)、中・小学生 無料</p> <p>5. アンケート回収数 1,001件 アンケート結果 ・良い 65%(654件)・普通 18%(181件)・悪い 10%(102件)</p> <p>6. 特記事項: 年末年始を含め12月24日から1月5日まで、無料開館した。</p>	<p>A</p>	<p>京都国立博物館の方針に基づいて体系的に収集した約1万2千点の収蔵品(寄託を含む)を、各館の特色や日常的な調査研究の成果を生かして展示した。また、入館者に楽しんでもらえるよう58回の展示替えや「国宝・一遍聖絵展」等の特集展示を積極的に行うなど工夫をこらし、入館者を着実に増やした。今後とも、多くの国民に平常展を観覧してもらえよう、効果的な広報を検討することが望ましい。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 積極的にアンケートを行い、その結果を分析して今後の事業の企画や広報に活用する必要がある。 京都という地域性を生かした展示や効果的な照明などを工夫することが望ましい。</p>
<p>(1)-6 各館の連携による共同企画展等の実施について検討し推進する。</p> <p>(1)-7 収蔵品の効果的活用、地方における観覧機会の充実を図る観点から、全国の公立博物館等と共催で、地方巡回展を実施する。(年1～2か所程度) なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。</p> <p>(3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏ま</p>	<p>共催展 「京都最古の禅寺 建仁寺」</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開会期間 平成14年4月23日～平成14年5月19日</p> <p>2. 会場 本館</p> <p>3. 主催 京都国立博物館、建仁寺、読売新聞大阪本社、読売テレビ 後援 文化庁、日本書芸院、(社)京都市観光協会、(財)平安建都1200記念協会 協力 ヤマト運輸 協賛 積水化学工業、ニッセイ同和損害保険</p> <p>4. 陳列品総件数 165件(うち国宝 1件、重要文化財 14件、重要美術品 4件)</p> <p>5. 入場料金 大人1,300円(団体900円)、大・高生900円(団体500円)、中・小学生400円(団体200円)</p> <p>6. 展覧会の内容 従来から知られている文化財のほか、新出資料も加え、京都最古の禅寺である建仁寺の文化財を総合的に紹介する。</p> <p>7. 講演会等 4回(参加人数 867人)</p> <p>8. アンケート回収数 1,525件 アンケート結果 ・良い 74%(1,127件)・普通 20%(308件)・悪い 2%(37件)</p> <p>9. 特記事項 本展覧会より「出品目録一覧」を作成のうえ、観覧者に配布</p>	<p>A</p>	<p>京都国立博物館が平成10年から行った総合調査の成果が生かされた質の高い展覧会であった。また、目標を大きく上回る人々が観覧した。 今後とも、京都国立博物館ならではの特色ある展覧会を開催することが望ましい。</p>
	<p>入館者数</p>	<p>30,000人以上 21,000人以上 30,000人未満 21,000人未満</p>	<p>257件 12件 642,391人 2,130件 86,772人</p>	<p>A</p>	

えて目標を設定し、その達成に努める。	特別展 「日本人と茶」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 開会期間 平成14年9月7日～平成14年10月14日</p> <p>2. 会場 本館</p> <p>3. 主催 京都国立博物館、読売新聞大阪本社 後援 不審庵、今日庵、官休庵、藪内燕庵、NHK京都放送局 協力 岡村印刷工業(株) 協賛 JR東海、非破壊検査、福寿園</p> <p>4. 陳列品総件数 203件(うち国宝 13件、重要文化財 46件)</p> <p>5. 入場料金 大人1,200円(団体850円)、大・高生850円(団体500円)、 中・小学生400円(団体200円)</p> <p>6. 展覧会の内容 1200年にわたる日本の喫茶文化を、各時代を特徴づける茶道具や絵画・書などによって概観する展示</p> <p>7. 講演会等 6回(参加人数 1,302人)</p> <p>8. アンケート回収数 942件 アンケート結果 ・良い 75%(705件)・普通 22%(211件)・悪い 2%(21件)</p>	A	茶道以前の喫茶の歴史を多角的な視野から取り上げた意欲的な展覧会であった。 また、目標を大きく上回る人々が観覧した。	
	入館者数	20,000人以上	14,000人以上 20,000人未満	14,000人未満	49,916人	A
	共催展 「大レンブラント」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 開会期間 平成14年11月3日～平成15年1月13日</p> <p>2. 会場 本館</p> <p>3. 主催 京都国立博物館、朝日新聞社、シーボルト財団、ヘッセン州学術文化省 後援 朝日放送 協力 JTB、日本航空、ICU 協賛 (株)NTTDocomo関西</p> <p>4. 陳列品総件数 43件(うち国宝 0件、重要文化財 0件)</p> <p>5. 入場料金 大人1,500円(団体1,200円)、大・高生1,000円(団体600円)、 中・小学生400円(団体250円)</p> <p>6. 展覧会の内容 レンブラントの最初期から最晩年までを通覧できる油彩画を展示</p> <p>7. 講演会等 3回(参加人数439人)</p> <p>8. アンケート回収数 6,681件 アンケート結果 良い 82%(5,485件)・普通 13%(863件)・悪い 4%(249件)</p> <p>9. 特記事項 混雑解消のため、入場整理券を発行して入場制限を実施 出陳者の要求により、会期中24時間空調を実施 年末年始の開館を行うとともに、これまでの展覧会の夜間開館は毎週金曜日のみであったが、本展覧会は毎週土曜日も夜間開館を実施 12月13日から1月13日まで、構内樹木を利用してイルミネーションでライトアップを実施</p>	A	京都国立博物館でレンブラント展を開催することについては様々な意見があると思われるが、国民の関心を喚起する企画で目標を大きく上回る人々が観覧し、アンケートでも8割以上から「良かった」との回答を得ている。また、混雑緩和のために整理券を発行したり、年末年始を開館するなど、入館者サービスにも努めた。  【より良い事業とするための意見等】 図録における解説等については執筆者名と訳者名を明記するなど、学術的な面に配慮するとともに、読者にも分かりやすいようにすることが望ましい。	
	入館者数	80,000人以上	56,000人以上 80,000人未満	56,000人未満	282,178人	A
海外交流展 「日本からの美のたより展」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 開会期間 平成14年9月20日～平成14年10月28日</p> <p>2. 会場 チェコ共和国 プラハ・キンスキー宮殿</p> <p>3. 主催 プラハ国立美術館アジア館、京都国立博物館 協力 パナソニック 協賛 ルフトハンザ他</p> <p>4. 陳列品総件数 67件(うち国宝 3件、重要文化財 12件)</p> <p>5. 入場料金 100コルナ(400円)</p> <p>6. 展覧会の内容 京都国立博物館所蔵品を主体とした日本古美術の名品展</p> <p>7. 講演会等 なし</p>	A	海外に日本の優れた文化財を紹介するものとして有効であった。  【より良い事業とするための意見等】 海外での評価を収集し、日本国内で積極的に公表することが望ましい。		
地方巡回展 「水辺の風景」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 開会期間 平成14年9月6日～平成14年10月6日</p> <p>2. 会場 広島県立歴史博物館</p> <p>3. 主催 広島県立歴史博物館、京都国立博物館、京都国立近代美術館 共催 中国新聞備後本社</p> <p>4. 陳列品総件数 41件(うち国宝 1件、重要文化財 4件)</p> <p>5. 入場料金 大人700円(団体560円)、大・高生520円(団体410円)、 中・小学生350円(団体280円)</p> <p>6. 展覧会の内容 水と関わりの深い瀬戸内の民衆と文化に視点をあてた展示を行っている開催館の性格に鑑み、人間と水との関わり方を「暮らして憩い」「四季を愛でる」「旅と名所」「水辺の息づかい」という4つのテーマにわけて京都国立博物館及び京都国立近代美術館の所蔵するさまざまな分野の作品から水をテーマに展示</p> <p>7. 講演会等 2回</p> <p>8. アンケート回収数 204件 アンケート結果 良い 70%(142件)・普通 18%(36件)・悪い 5%(10件)</p>	A	地方においても国立博物館の優れた文化財を観覧する機会を提供した。 また、開催館の要望を尊重したことも評価する。  【より良い事業とするための意見等】 平成12年度の実績を目標としているが、展覧会毎に目標を立てることが望ましい。		
入館者数	5,603人以上	3,922人以上 5,603人未満	3,922人未満	4,444人	B	
(2)-1 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設に対し、貸与及び特別観	貸与・特別観覧の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 国内外の博物館・美術館への貸与では200件を目標に、また特別観覧では500件を目標に設定し、収蔵品の積極的な活用を行った。</p> <p>2. 特記事項：貸与に当たっては、保存状況に留意しつつ要請に応じて貸与した。</p>	A	公私立の博物館等に対して、文化財の貸与や特別観覧を行い、広く国民へ公開することに貢献した。	



<p>覧を積極的に推進する。</p> <p>(2)-2 国立博物館及び公私立博物館が所蔵する考古資料を相互に貸借し、歴史的・考古学的に体系的・通史的な展覧会を実施する。(年間5件程度)</p>						<p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>今後も、貸与等の要望が増えると思われるが、文化財の保管状態や自館での展示計画に留意し、貸与要望の主旨を考慮しながら、幅広く応えることが望ましい。</p> <p>また、貸与・特別観覧の料金は、国の施設等機関であった頃の使用料に準拠しているが、今後、使用者やその目的などを勘案し、提供するサービスに見合った使用料や対応を検討することが望ましい。</p>
<p><b>3 調査研究</b></p> <p>(1)-1 調査研究が収集・保管・修理・展示、教育普及その他の博物館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる各館の方針に従い、調査研究を積極的に実施する。</p> <p><b>(東京国立博物館)</b></p> <p>日本の文化財及び日本の文化に影響を与えた東洋諸地域の文化財の調査研究を実施する。</p> <p>法隆寺献納宝物に関する調査研究を実施する。長期的な修理計画を策定するためのX線、赤外線写真等光学的データのデジタル画像処理システムの開発を行い、将来的に文化財保存カルテ等作成に利用できるデータベースの構築を目指す。</p> <p>館所蔵模写模本類による原品復元に関する調査研究を行う。</p> <p><b>(京都国立博物館)</b></p> <p>京都文化を中心にした文化財の調査研究を計画的に実施する。</p> <p>神と仏の思想的交流と造形に関する調査研究を実施する。</p> <p>修復文化財に関する調査研究を実施する。</p> <p><b>(奈良国立博物館)</b></p> <p>南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施する。</p> <p>仏教美術写真収集及びその調査研究を行う。</p> <p>(1)-2 国内外の博物館・美術館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。</p> <p>(2) 調査研究の成果については、展覧会、文化財の収集等の博物館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネット等を活用して広く情報を発信し、博物館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>	<p>調査研究の実施状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>		<p>1. 収蔵品の調査研究 近畿社寺文化財の調査研究</p> <p>2. 展覧会のための調査研究 平成14年度特別展「日本人と茶」に関する調査研究 平成14年度特別展観「祇園・八坂神社の名宝」及び特別陳列「大將軍八神社の神像」、「坂本龍馬」、「国宝・一遍聖絵」、「古筆と手鑑」、「雛まつりとお人形」に関する調査研究 平成14年度共催特別展「建仁寺」、「大レンブラント」に関する調査研究 平成15年度特別展「金色のかざり」に関する調査研究</p> <p>3. 科学研究費補助金による調査研究 中尊寺経を中心とした平安時代の装飾経に関する調査研究 伝船中湧現観音像の図像及び教学的背景に関する調査研究 漢字文化圏における古写本の変遷と初期の印刷物に関する調査研究 敦煌写本の書誌に関する調査研究 近世日本と中国・東南アジア・琉球で出土・伝世した工芸品に関する調査研究</p> <p>4. 保存・修理に関する調査研究 修復文化財に関する調査研究</p> <p>5. 外部から招聘した客員研究員との研究交流を進めながら、本年度及び次年度開催の特別展覧会の準備調査・研究を実施</p> <p>6. 刊行物発行 年報(平成13年度研究成果発表)、研究紀要「学叢」第24号、社寺調査報告23(建仁寺)、助成研究会報告書第三十冊 一遍聖絵の諸相</p> <p>7. 学会発表 6件</p> <p>8. シンポジウム開催 2回 一遍聖絵の諸相(参加人数 60人) 再構築されるレンブラント(参加人数 189人)</p>	<p>A</p>	<p>収蔵品や展覧会に関する調査研究は着実に行われ、文化財の収集、展覧会及び図録の刊行などに成果を上げた。</p> <p>その他にも、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得や外部の研究者との連携・協力により、充実した調査研究が行われた。</p> <p>特に、建仁寺塔頭の文化財300件を網羅的に調査したことを評価する。</p> <p>また、研究紀要等をホームページでも公開したことも評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>研究成果を積極的に公開し、学会等にも発表することが望ましい。</p>
<p><b>4 教育普及</b></p> <p>(1)-1 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。</p> <p>(1)-2 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。</p> <p>(3)-3 美術図書等の閲覧施設を研究者中心から一般へと利用の拡大を図り、生涯学習の場とする。</p> <p>(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、図版目録、展覧会目録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極</p>	<p>博物館に関する情報の収集及び公開の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>		<p>1. 資料の収集及び公開 収集件数 図書 2,370件 写真原板 5,216枚</p> <p>2. 美術図書等の閲覧施設: 常設展棟において、入館者に対し過去の展覧会目録を中心に文化財関係の辞典を加えた図書コーナーを開設</p> <p>3. 広報活動の状況 インターネットを活用した情報提供、概要・年報・各展覧会目録の刊行、博物館だより、News Letter、年度の催事案内、展示案内、学叢、社寺調査報告(建仁寺)及び助成研究会報告書第三十冊 一遍聖絵を発行 ホームページによる展覧会情報、収蔵品カタログの情報量を増やすとともに研究紀要「学叢」をホームページで公開</p> <p>4. デジタル化の状況 収蔵品のデジタル高精細画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開 収蔵品のうち国宝については、5ヶ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付</p>	<p>A</p>	<p>資料の収集・公開、各種広報誌の発行、収蔵品のデジタル化など計画どおり着実に実施した。</p> <p>また、ホームページは、展覧会や収蔵品情報等の充実を図り、アクセス件数を伸ばした。</p> <p>京都国立博物館の全ての国宝を高精細画像でデジタル化し館内及びホームページで公開した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>収蔵品のデジタル化やその公開については、より一層の取組が望まれる。</p> <p>所蔵図書のデータをホームページで公開することが望ましい。</p>

<p>的に広報活動を展開するとともに、国立博物館への理解の促進を図る。 また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、3館共同による広報体制の在り方について検討を行う。</p> <p>(5)-2 国内外に広く情報を提供することができホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。</p> <p>(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、文化財情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。 また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	<p>博物館だより出版件数</p> <p>収蔵品等のデジタル化件数</p> <p>ホームページのアクセス件数</p>	<p>4回以上</p> <p>3回</p> <p>3回未満</p> <p>200件以上</p> <p>140件以上 200件未満</p> <p>140件未満</p> <p>248,304件以上</p> <p>173,813件以上 248,304件未満</p> <p>173,813件未満</p>	<p>したデジタル高精細画像として常設展棟ロビーにて公開 高精細画像のデジタル化のほか、通常ペースで5,087件の文化財をデジタル化し、文化財情報システムに登録</p> <p>4回</p> <p>241件</p> <p>511,293件</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	
<p>(2)-1 次に掲げる各館の方針に従い、新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした文化財解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、文化財等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。 また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。 <b>(東京国立博物館)</b> 児童生徒を対象とした文化普及事業及び文化財とのふれあい事業を実施し、教育普及の推進を図る。 中・高校生を対象とした総合学習としての職場体験学習及び大学等を対象としたインターンシップの受入れを実施する。 <b>(京都国立博物館)</b> 小中学生学習プログラム等について検討、実施する。 <b>(奈良国立博物館)</b> 親と子の文化財教室を実施し、児童生徒に対する教育普及の促進を図る。 修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成、解説等について検討、実施する。</p> <p>(3)-1 文化財に関する情報について正しく後世に伝えるとともに、その理解を深めるような講演会、講座及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。 それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。 また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。</p> <p>(3)-2 友の会活動を通じて、文化財に接する機会を増やし、より充実した学習の場を提供する。</p>	<p>講座・講習会等の実施状況</p> <p>小学生向け作品解説シート</p> <p>土曜講座</p> <p>回数</p> <p>人数</p> <p>アンケート</p> <p>夏期講座</p> <p>回数</p> <p>人数</p> <p>アンケート</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p> <p>7,500部以上</p> <p>5,250部以上 7,500部未満</p> <p>5,250部未満</p> <p>46回以上</p> <p>32回以上 46回未満</p> <p>32回未満</p> <p>3,908人以上</p> <p>2,736人以上 3,908人未満</p> <p>2,736人未満</p> <p>80%以上</p> <p>56%以上 80%未満</p> <p>56%未満</p> <p>3日以上</p> <p>2日</p> <p>2日未満</p> <p>133人以上</p> <p>93人以上 133人未満</p> <p>93人未満</p> <p>80%以上</p> <p>56%以上 80%未満</p> <p>56%未満</p>	<p>1. 児童生徒を対象とした事業：小・中学生向け解説シート（博物館ディクショナリー）を継続して作成し、かつ、ホームページに掲載し充実を図る。また中学生の体験学習生を受入れた。 体験学習 開催期間 平成15年2月4日～2月6日（3日間） 開催場所 常設展棟、警備室、南門、構内 参加者数 1人 事業内容 中学生を対象に検札、看視、警備及び観覧者への応対業務を体験させる。 博物館ディクショナリーの発行 発行日 毎月第2土曜日 12回 発行部数 1回 1,500部 事業内容 展示品の中から毎月1件を選び、担当研究員が児童生徒にわかりやすい解説シートを作成</p> <p>2. 講演会等の事業 土曜講座 特別展覧会、特別陳列、平常陳列に関する講演。うち1回は国際シンポジウムとして開催 夏期講座 「祈りの造形」をテーマに、日本、東洋、西洋の美術に関する講演と現地見学</p> <p>3. 友の会の活動 会員数 2,092人 活動内容 国立博物館及び国立美術館の展覧会の鑑賞や京都国立博物館の行う講座等への参加（講演会等 46回）</p> <p>18,000部</p> <p>46回（うち1回は国際シンポジウムとして開催）</p> <p>5,508人</p> <p>78% 回答数189件、良い78%（147件）、普通9%（17件）、悪い3%（6件）</p> <p>3日</p> <p>116人</p> <p>79% 回答数86件、良い79%（68件）、普通15%（13件）、悪い5%（4件）</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>児童生徒を含む多くの人々を対象とした講演会や友の会の活動などを計画どおり着実に実施した。 また、新たに、中学生の就業体験を開始した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 講演会等の活動については、年齢・性別を問わず、幅広い国民各層を対象とするよう配慮し、本来業務に支障を来たさない程度に充実させることが望ましい。 外部の専門家の協力を得るなどして、国立博物館としてふさわしい事業を検討することが望ましい。 一般観覧者にも配慮しつつ、展覧会場内で学校の教員等が解説できる方策を検討することが望ましい。</p>
<p>(4)-1 博物館・美術館関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。</p> <p>(4)-2 全国の公私立博物館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。</p> <p>(4)-3 公私立博物館・美術館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。</p> <p>(4)-4 公私立博物館・美術館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。</p> <p>(4)-5 大学等と連携し、大学院生や大学生を受け入れ、文化財に関する実習等について</p>	<p>研修等の取組み状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 研修の取組・公私立博物館への助言等 （財）日本国際協力センターによる「文化財修復整備技術コース」の研修会に協力 協力した研究員数 1人 参加者数 外国人10人 国宝修理装こう師連盟定期研修会に協力 学芸担当職員研修：博物館学芸員研修として受入 受入人数 2人 文化庁による指定文化財企画・展示セミナーに協力 協力した研究員数 7人 参加者数 27人 公私立博物館・美術館の展覧会の充実のために援助・助言 7件</p> <p>2. 大学等との連携：京都大学大学院人間・環境学研究所の環境保全発展論講座の運営を担当し、また博物館実習生として各大学から受け入れた。 大学院生 受入人数 8人</p>	<p>A</p>	<p>学芸担当職員への研修、博物館実習生の受入れ、ボランティアの活用など計画どおり着実に実施した。 特に、外国人研修者の受入れや他の団体が行う研修会等への協力を積極的に行った。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 ボランティア等として、大学生・大学院生の活用も検討することが望ましい。</p>

<p>検討、実施する。</p> <p>(6)-1 ボランティア希望者に対し、そのニーズに応える研修を実施し、参加者の拡大を図る。ボランティアは登録を行い、連携協力して展覧会での解説など、国立博物館が提供するサービスの充実を図る。</p> <p>なお、ボランティアの受け入れについては、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の延人数の確保に努める。</p>	<p>大学生等の受入人数 (15大学)</p> <p>ボランティアの受入件数</p>	<table border="1"> <tr> <td>35人以上</td> <td>25人以上 35人未満</td> <td>25人未満</td> </tr> <tr> <td>16人以上</td> <td>11人以上 16人未満</td> <td>11人未満</td> </tr> </table>	35人以上	25人以上 35人未満	25人未満	16人以上	11人以上 16人未満	11人未満	<p>博物館実習生 参加大学 22大学</p> <p>3. ボランティアの活用状況：京都橘女子大学との学术交流の一環として、20名を受け入れ解説ボランティア（常設展の展示解説）を実施</p> <p>22大学 39人</p> <p>20人</p>	<p>A</p> <p>A</p>																				
35人以上	25人以上 35人未満	25人未満																												
16人以上	11人以上 16人未満	11人未満																												
<p>(6)-2 企業との連携等、国立博物館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討する。</p>	<p>渉外活動の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 渉外活動：京都国立博物館支援法人の（社）清風会が行う鑑賞会・見学会に協力した。また（社）京都市観光協会が実施している「京都修学旅行パスポート」に協賛し、その他の企業等と協約書など交わした。</p> <p>賛助会員（清風会会員）への協力 京都市観光協会への協賛 京阪電鉄、JRにポスター掲出場所の確保 4件 企業との協約締結 3件</p>	<p>B</p>	<p>地元産業界と連携・協力するなど、渉外活動を行い入館者の獲得に努めた。また、京都国立近代美術館・京都市美術館と協力し、3館共通チケットを販売した。</p> <p>今後も、地元の資源を有効に生かしてより積極的に行う必要がある。</p>																									
<p><b>6 その他の入館者サービス</b></p> <p>(1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。</p> <p>(1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。</p> <p>(1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な博物館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる博物館となるよう努力する。</p> <p>(3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。</p>	<p>その他の入館者サービスの状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 高齢者・身体障害者のための施設整備等</p> <p>本館南便所の整備 ベビーシートの設置（5ヶ所） 正門廻り歩行路の整備</p> <p>2. 観覧環境の充実</p> <p>音声ガイド</p> <table border="1"> <tr> <td>雪舟展</td> <td>貸出期間</td> <td>平成14年4月1日～4月7日</td> <td>貸出件数</td> <td>8,749件</td> </tr> <tr> <td>建仁寺展</td> <td>貸出期間</td> <td>平成14年4月23日～5月19日</td> <td>貸出件数</td> <td>7,012件</td> </tr> <tr> <td>坂本龍馬展</td> <td>貸出期間</td> <td>平成14年7月31日～9月1日</td> <td>貸出件数</td> <td>2,022件</td> </tr> <tr> <td>日本人と茶展</td> <td>貸出期間</td> <td>平成14年9月7日～10月14日</td> <td>貸出件数</td> <td>4,739件</td> </tr> <tr> <td>大レプラント展</td> <td>貸出期間</td> <td>平成14年11月3日～平成15年1月13日</td> <td>貸出件数</td> <td>42,492件</td> </tr> </table> <p>入場整理券を発行し、待ち時間を和らげた。（大レプラント展） 特別展の「展示作品一覧」を作成し、一層展示品を身近なものにした。 入館者向けにハイビジョンによる文化財に関するプログラムを上映した。</p> <p>3. 夜間開館等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>共催展、特別展期間中、毎週金曜日は20時まで、その他の日は18時まで開館した。</li> <li>共催展「大レプラント展」については、年末年始は開館（12月26日から1月3日）した。さらに、通常休館とする月曜日の中の11月5日及び12月24日は開館した。</li> </ul> <p>夜間開館</p> <p>開館日数 27日 入館者数 6,106人</p> <p>年末年始の開館</p> <p>開館日数 9日（12月26日～1月3日）</p> <p>4. 入館者等の要望の反映</p> <p>館内に意見箱を設置し、入館者の意見を随時受け付け満足度の調査を実施し、展示等に反映 外部の専門家からの意見を聴取し、入館者サービスに努めた。 英語によるインフォメーションを常設展棟に設けた。</p> <p>5. レストラン・ミュージアムショップの充実</p> <p>ミュージアムショップ商品について、京都国立博物館友の会、賛助会員には10%引き、小・中学生には5%引きで購入できるようにした。 茶室を改修し、公開及び利用できるよう整備した。 年末年始を含む12月13日から1月5日まで構内樹木を利用してイルミネーションでライトアップした。 来客からの声を集約し、期待に応えられるよう出来るところから改善した。</p>	雪舟展	貸出期間	平成14年4月1日～4月7日	貸出件数	8,749件	建仁寺展	貸出期間	平成14年4月23日～5月19日	貸出件数	7,012件	坂本龍馬展	貸出期間	平成14年7月31日～9月1日	貸出件数	2,022件	日本人と茶展	貸出期間	平成14年9月7日～10月14日	貸出件数	4,739件	大レプラント展	貸出期間	平成14年11月3日～平成15年1月13日	貸出件数	42,492件	<p>A</p>	<p>小・中学生の平常展料金の無料化、年末年始の開館、英語によるインフォメーション設置、オムツ交換台の設置、解説の文字を大きくするなど入館者サービスの向上に努めた。</p> <p>サッカーのワールドカップ開催期間中は、外国人観光客に対し平常展の観覧料金を無料にするとともに、外国語のリーフレットを配布するなど、日本文化の理解促進に貢献した。</p>
雪舟展	貸出期間	平成14年4月1日～4月7日	貸出件数	8,749件																										
建仁寺展	貸出期間	平成14年4月23日～5月19日	貸出件数	7,012件																										
坂本龍馬展	貸出期間	平成14年7月31日～9月1日	貸出件数	2,022件																										
日本人と茶展	貸出期間	平成14年9月7日～10月14日	貸出件数	4,739件																										
大レプラント展	貸出期間	平成14年11月3日～平成15年1月13日	貸出件数	42,492件																										

## 【奈良国立博物館】

### 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図	効率化の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	1. 業務の一元化（本部） 共済組合事務、損害保険契約事務、情報公開制度事務、給与システムの一元化	2. 省エネルギー等（リサイクル・ペーパーレス） 管理部門及び共通部門での蛍光灯の間引き、館内各所における節水・節電協力の掲示、ゴミの分別収集、ミスコピー回収箱の設置、館内メールの活用及び両面コピー等を推進した結果、電気、ガス及び産業廃棄物は1%以上の節約を達成したが、総入館者数の増加に伴い、水道、一般廃棄物及び紙の使用枚数は増加した。全体としては1%以上の節約となった。	3. 施設の有効利用	B	多くの人々が観覧し、事業の充実を図るなどより多くの事業費を必要とする中で、奈良国立博物館の業務全般について省エネルギーや施設の有効利用に努力し1%の効率化を図った。 今後も、博物館本来の業務に支障を来さない程度に効率化を図る必要がある。

<p>る。</p> <p>(1) 各博物館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p> <p>(4) 外部委託の推進</p> <p>(5) 事務のO A化の推進</p> <p>(6) 積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>					<p>講堂を公開講座等各種講座や作品解説の会場として活用した。また、関係団体等へ施設の利用案内の周知と企画協力を行った。特に、当館支援ボランティア団体「結(ゆふ)の会」の結成により、特別展開連行事の茶席の開催回数が約3倍に増加した。この他、外部に対し各種催し物会場としての施設の利用について情報が広まり、施設の利用が増え、地域に密着した形での博物館施設の活用が推進できた。</p> <p>4 外部委託</p> <p>従来から行っている電気・機械・ボイラー各設備の運転業務、環境衛生管理業務、清掃業務、庭園整備管理業務、常設展・特別展での看視・売札・図録販売業務における臨時アルバイトの継続的導入に加え、特別展(正倉院展)会期中に設置した臨時コインロッカーの管理を、隣接する臨時休憩所運営業者に休憩所運営許可の条件として委託した。</p> <p>5 O A化</p> <p>給与システムの本格稼働を行い、給与データの相互利用を実施、業務の効率化を図った。また、電子メールの活用により、紙の使用枚数が減少し、職員のコスト意識及び環境意識が高まった。この他、ネットワークへの不正侵入及びウイルスに対する防御措置の強化と、不正プログラムの侵入に対しての職員への注意徹底を行った。</p> <p>6 一般競争入札</p> <p>実施件数2件(図録印刷、運転管理)、全体契約件数に対する比率は1%未満であったが、基準額以下の調達についても見積もり合わせを行い、一般競争と同じ効果が得られるよう契約を行った。</p> <p>7 運営委員会、外部評価委員会の開催(本部)</p> <p>評議員会・文化財保存修理所運営委員会・運営会議(奈良博)</p> <table border="1" data-bbox="1216 567 1780 651"> <tr> <td>(1) 評議員会</td> <td>開催回数</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>(2) 文化財保存修理所運営委員会</td> <td>開催回数</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>(3) 運営会議</td> <td>開催回数</td> <td>2.8回</td> </tr> </table> <p>8 研修</p> <p>監査法人による13年度の財務諸表を使用した研修及び、当館産業医による職員対象の健康指導(講話)を実施した。</p> <p>9 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当館支援ボランティア団体「結(ゆふ)の会」の結成による茶室及び周辺施設の利用促進。</li> <li>施設貸出に際し、申請者にイベント保険の加入を指導した他、展示室の貸出に際し、損害賠償の項目を盛り込んだ契約書を作成。</li> <li>健康増進法の施行に向けて事務室内に職員用の分煙室を整備した。</li> </ul>	(1) 評議員会	開催回数	2回	(2) 文化財保存修理所運営委員会	開催回数	1回	(3) 運営会議	開催回数	2.8回	<p>外部委託については、特に問題は認められなかった。</p>
(1) 評議員会	開催回数	2回													
(2) 文化財保存修理所運営委員会	開催回数	1回													
(3) 運営会議	開催回数	2.8回													
	<p>効率化の達成率</p>	<p>1.5%以上</p>	<p>1.0%以上 1.5%未満</p>	<p>1.0%未満</p>	<p>1.00%</p> <p>算式 効率化率 = (見積予算額 - 決算額) ÷ 見積予算額</p> <p>= [ (予算額 ÷ 0.99) - 決算額 ] ÷ (予算額 ÷ 0.99)</p> <p>= [ (1,043,805,016 ÷ 0.99) - 1,043,805,016 ] ÷ (1,043,805,016 ÷ 0.99) = 0.0100</p> <p>運営費交付金予算額 1,043,805,016円、効率化した額 10,543,485円</p>	<p>B</p>									

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
<p>1 収集・保管</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を図る。また、そのための情報収集を行う。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>仏教美術を中心とした名品を収集する。</p> <p>(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている分野を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。</p>	<p>文化財の収集(購入・寄贈・寄託)の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。</p>	<p>1. 購入 9件(うち重要文化財 1件)</p> <p>2. 寄贈 1件(382点)</p> <p>3. 寄託 1,777件(うち国宝 52件、重要文化財 305件)</p>	<p>1,777件</p>	<p>1. 温湿度</p> <p>(1) 展覧会場(本館、西新館、東新館)</p> <p>空調実施時間 24時間 温度 22~25 相対湿度 60%±5%</p> <p>*入館者が入ったときの温湿度管理について空調センサーにより目標値を維持している。</p> <p>(2) 収蔵庫(東新館、地下回廊)</p> <p>空調実施時間 24時間 温度 22~25 相対湿度 60%±5%</p> <p>2. 照明 展覧会場においては、陳列品保護のため、80~100ルクスを保持</p> <p>3. 空気汚染 外気をできるだけ取り入れない方針のため、空気環境測定を定期的実施し、適切な環境を保持。</p> <p>4. 防災 奈良市消防局主催の文化財防火ゼミナールへの参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消防計画の作成</li> <li>奈良市消防局との合同消防訓練の実施</li> <li>奈良市消防局による館内消防設備の定期的点検の実施</li> <li>奈良県文化財保安連絡会議の当館での開催</li> </ul> <p>5. 防犯 奈良県警察本部主催防犯連絡会への職員の参加</p> <p>6. 特記事項 保存環境調査点検件数 100件</p>	<p>A</p>	<p>奈良国立博物館の収集方針に基づき文化財を収集し、着実にコレクションの充実を図った。特に、寄贈で高い成果を上げた。</p>
<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く後世へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。</p> <p>(2)-2 収蔵品の保存カルテ作成、保存環境の調査等を実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。</p>	<p>保管の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。</p>	<p>1. 温湿度</p> <p>(1) 展覧会場(本館、西新館、東新館)</p> <p>空調実施時間 24時間 温度 22~25 相対湿度 60%±5%</p> <p>*入館者が入ったときの温湿度管理について空調センサーにより目標値を維持している。</p> <p>(2) 収蔵庫(東新館、地下回廊)</p> <p>空調実施時間 24時間 温度 22~25 相対湿度 60%±5%</p> <p>2. 照明 展覧会場においては、陳列品保護のため、80~100ルクスを保持</p> <p>3. 空気汚染 外気をできるだけ取り入れない方針のため、空気環境測定を定期的実施し、適切な環境を保持。</p> <p>4. 防災 奈良市消防局主催の文化財防火ゼミナールへの参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消防計画の作成</li> <li>奈良市消防局との合同消防訓練の実施</li> <li>奈良市消防局による館内消防設備の定期的点検の実施</li> <li>奈良県文化財保安連絡会議の当館での開催</li> </ul> <p>5. 防犯 奈良県警察本部主催防犯連絡会への職員の参加</p> <p>6. 特記事項 保存環境調査点検件数 100件</p>	<p>1,740件以上</p> <p>1,218件以上 1,740件未満</p> <p>1,218件未満</p>	<p>A</p>	<p>温湿度や照明などに配慮した適切な保管がされている。</p> <p>特に西新館の空調設備が改修され、保管環境が強化された。また、奈良市消防局との連携も評価する。</p> <p>その他、保存カルテ作成のための調査点検も着実に作成した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>文化財は貴重な国民の財産であるため、外部の研究者の協力を得るなどして、より良い保存環境の整備に努めることが望ましい。</p>	

				・長年の懸案であった老朽化した西新館の空調設備改修工事を実施			
	調査点検件数	100件以上	70件以上 100件未満	70件未満	100件	A	
(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。 緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。 長期寄託品等の修理を実施する。 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。 文化財修理・保存処理関係のデータベース化とその公開を実施。	修理の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 絵画 2件 工芸 1件 書跡典籍 1件 考古資料 2件 計 6件 その他、民間財団の助成により長期寄託品2件(彫刻)を修理 文化財保存修理所での修理件数 彫刻 14件 工芸 2件 絵画 30件 書跡・文書 9件 歴史 6件 計 61件	A	本格的に稼働した文化財保存修理所において、緊急を要するものから計画的に、修理業者を指導しながら修理を行った。また、修理データも確実に記録した。 特に、外部資金を得て長期寄託品2件を修理した。  【より良い事業とするための意見等】 保存カルテや修理データは、今後の保存・修理の貴重な記録となるため、今後とも確実にを行い、3館共通の規格によるデータベース化も検討することが望ましい。
(3)-2 国内外の博物館等の修理、保存処理の充実に寄与する。		修理件数(寄託品を含む)	6件以上	4件以上 6件未満	4件未満		
<b>2 公衆への観覧</b> (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ各館において魅力ある質の高い常設展・特別展等を実施する。 (1)-2 常設展においては、東京・京都・奈良の国立博物館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の文化や歴史の理解の促進に寄与する展示を実施する。 (1)-3 特別展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 なお、実施にあたっては、国内外の博物館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。 <b>(東京国立博物館)</b> 年3～5回程度 <b>(京都国立博物館)</b> 年2～3回程度 <b>(奈良国立博物館)</b> 年2～3回程度 (1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。 (1)-5 海外交流展については、海外の博物館等と連携を図りながら、国内外の優れた文化財を広く国民に観覧する機会を提供する	展覧会の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 常設展 陳列替 21回、特別陳列4回、親子のギャラリー1回、特別展観1回 2. 特別展・共催展 3回 「東大寺のすべて」 「観音のみてら 石山寺」 「第54回正倉院展」 3. 入館者数 699,040人(平成13年度 324,050人)	A	奈良国立博物館の特色や日常的な調査研究の成果を生かした常設展、「東大寺のすべて」など幅広い層を対象とし国民の関心をより強く喚起した企画展、地方にも優れた美術作品を鑑賞する機会を提供した地方巡回展など様々な内容のものをバランス良く行った。 また、目標の入館者数約28万人を超える約70万人が観覧した。
		入館者数	280,000人以上	196,000人以上 280,000人未満	196,000人未満		
	常設展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 開会期間 181日間 2. 会場 本館、西新館 3. 陳列品総件数 1,062件(うち国宝55件、重要文化財415件) 4. 入場料金 大人420円(210円)、高・大生130円(70円)、小・中学生 無料 ( )内は20名以上の団体料金 5. アンケート回収数 495件 アンケート結果 ・良い 80%(396件) ・普通 14%(69件) ・悪い 6%(30件) 6. 特記事項 ・本館における彫刻部門の展示では、インド・西域・中国・韓国の仏像及び我が国の飛鳥から鎌倉・室町時代にかけての仏教彫刻の変遷を表現。 ・仏教美術を中心とする当館のジャンルを拡げる中国古代青銅器コレクションの寄贈を受け、専用展示室において235点の展示を開始。 ・当初計画の特別陳列1回が、出陳協力者の事情により中止となり、代わりに特別展観「新春国宝展」を開催、対前年度同期比1.6倍の入館者を記録。 ・親子のギャラリー「一遍聖絵」を京都国立博物館と協力し、2会場連続開催し、子供にも理解しやすい内容と解説、図録を発行。	A	奈良国立博物館の方針に基づいて体系的に収集した約3千点の収蔵品(寄託を含む)を、各館の特色や日常的な調査研究の成果を生かして展示した。また、入館者に楽しんでもらえるよう19回の展示替えや「親子のギャラリー」等の特集展示を行うなど工夫をこらし、入館者を着実に増やした。今後とも、多くの国民に平常展を観覧してもらえよう、効果的な広報を検討することが望ましい。 特に、仏教彫刻が充実しており、また、新たに中国古代青銅器コレクションを展示した。 なお、アンケートでも8割から「良かった」との回答を得ている。
		陳列替数	24回以上	16回以上 24回未満	16回未満		
		陳列件数	300件以上	210件以上 300件未満	210件未満	1,062件	A
	共催展 「東大寺のすべて」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 開会期間 平成14年4月20日～平成14年7月7日 2. 会場 本館、東西新館 3. 主催 奈良国立博物館、東大寺、朝日新聞社、朝日放送 後援 文化庁、社団法人大仏奉賛会 協力 近畿日本ツーリスト、日本航空、JR東海 協賛 DNP大日本印刷、近畿日本鉄道、近鉄百貨店、JR西日本 4. 陳列品総件数 246件(うち国宝25件、重要文化財92件、正倉院御物13点) 5. 入場料金 大人1,300円(1,100円)、高校・大学生900円(700円)、小・中学生600円(400円) ( )内は前売り及び20名以上の団体料金 6. 展覧会の内容 奈良時代に開花した華麗な仏教文化を今日に伝える東大寺が、平成14年に大仏開眼1250年を迎えるのを機に、戒壇堂の「四天王立像」や、法華堂の「日光・月光菩薩立像」など、日本の仏教美術の最高峰ともいえるべき塑像のほか、海外の美術館にある東大寺関係の宝物など、東大寺の全容をうかがうに足る芸術作品を展示した。 7. 講演会等 公開講座 6回(参加人数780人) 作品解説 10回(参加人数970人)	A	東大寺の協力のもと、本館及び新館を使用した大規模で充実したものであり、奈良国立博物館の過去最高の入館者数を記録した。また、アンケートでも約8割から「良かった」との回答を得ている。
(1)-6 各館の連携による共同企画展等の実施について検討し推進する。 (1)-7 収蔵品の効果的活用、地方における観覧機会の充実を図る観点から、全国の公私立博物館等と共催で、地方巡回展を実施する。 (年1～2か所程度) なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。							



(3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。				8. アンケート回収数 3,448件 アンケート結果 ・良い77%(2,654件) ・普通13%(459件) ・悪い5%(181件)			
	入館者数	100,000人以上	70,000人以上 100,000人未満	70,000人未満	419,240人	A	
	特別展 「観音のみてら 石山寺」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 開会期間 平成14年8月9日～平成14年9月8日 2. 会場 東西新館 3. 主催 奈良国立博物館 4. 陳列品総件数 73件(うち国宝10件、重要文化財42件) 5. 入場料金 大人830円(560円) 高校・大学生450円(250円) 小・中学生250円(130円) ( )内は20名以上の団体料金 6. 展覧会の内容 良弁僧正による開創と伝えられる滋賀県大津市にある石山寺に伝わる、古代から中世にかけての南都仏教や密教、また観音信仰に基づく優れた仏教美術作品について、当館の石山寺所蔵文化財調査の際に発見された古代金銅仏4軀をはじめ、寺外不出の貴重書籍など、寺外初公開の作品を含め、宝物等を陳列した。 7. 講演会等 公開講座 3回(参加人数 360人) ギャラリートーク 1回(参加人数 50人) 8. アンケート回収数 193件 アンケート結果 ・良い63%(121件) ・普通19%(37件) ・悪い3%(5件) 9. 特記事項 ・本展は、当館の長期にわたるこれまでの石山寺調査の成果を反映し、系統的で質の高い紹介を行うものである。 ・本展準備の過程で石山寺本尊木造如意輪観音像の胎内から新たに飛鳥から奈良時代の小金銅仏4軀を発見し、急速展示に加え、図録に別刷を加えて刊行した。 ・本展を契機として、同寺から彫刻等7件の寄託を受け、当館収蔵品の充実が図られた。	A	目標入館者数には届かなかったが、研究者の研究成果が生かされた展覧会であった。また、石山寺本尊木造如意輪観音像の胎内から小金銅仏4?を発見し、展示したことも評価する。
入館者数	15,000人以上	10,500人以上 15,000人未満	10,500人未満	13,763人	B		
特別展 「第54回正倉院展」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 開会期間 平成14年10月26日～平成14年11月11日 2. 会場 東西新館 3. 主催 奈良国立博物館 協力 朝日新聞社 4. 陳列品総件数 71件 5. 入場料金 大人1,000円(900円) 高校・大学生700円(600円) 小・中学生400円(300円) ( )内は20名以上の団体料金、および前売り料金 6. 展覧会の内容 本年は、東大寺大仏開眼1250年に因み、大仏開眼法要の関連品や新羅との交易に関する品々を中心に、調度品、遊戯具、仏具、文書や経典などの宝物が出陳された。 7. 講演会等 公開講座 4回(参加人数 670人) 8. アンケート回収数 1,948件 アンケート結果 ・良い66%(1,275件) ・普通20%(398件) ・悪い8%(158件) 9. 特記事項 ・東西新館2会場を使用し宝物の配置にテーマ性を持たせ、順路等観覧者の流れをスムーズにし、各展示品の間隔を十分に確保して混雑緩和に努めた。 ・前売り券取扱機関の拡大、目録の宅配販売を行い、サービス向上を図った。	A	平成14年度で54回を数え、国民にしっかり定着した貴重な展覧会である。国民の関心も高く、目標を超える人々が観覧した。	
入館者数	120,000人以上	84,000人以上 120,000人未満	84,000人以上	141,381人	A		
(2)-1 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設に対し、貸与及び特別観覧を積極的に推進する。 (2)-2 国立博物館及び公私立博物館が所蔵する考古資料を相互に貸借し、歴史的・考古学的に体系的・通史的な展覧会を実施する。(年間5件程度)	貸与・特別観覧の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 収蔵品の保存状況にも留意しつつ、文化財の普及を図った。 2. 特記事項 文化財の保護・保存の観点から、貸与に際しては、その状態を十分に調査し、出来る限り要望に添うことに努めた。	A	公私立の博物館等に対して、文化財の貸与や特別観覧を行い、広く国民へ公開することに貢献した。  【より良い事業とするための意見等】 今後も、貸与等の要望が増えると思われるが、文化財の保管状態や自館での展示計画に留意し、貸与要望の主旨を考慮しながら、幅広く応えることが望ましい。 また、貸与・特別観覧の料金は、国の施設等機関であった頃の使用料に準拠しているが、今後、使用者やその目的などを勘案し、提供するサービスに見合った使用料や対応を検討することが望ましい。
	貸与件数	100件以上	70件以上 100件未満	70件未満	138件	A	
	特別観覧の件数	300件以上	210件以上 300件未満	210件未満	603件	A	

<p><b>3 調査研究</b></p> <p>(1)-1 調査研究が収集・保管・修理・展示、教育普及その他の博物館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる各館の方針に従い、調査研究を積極的に実施する。</p> <p><b>(東京国立博物館)</b> 日本の文化財及び日本の文化に影響を与えた東洋諸地域の文化財の調査研究を実施する。 法隆寺献納宝物に関する調査研究を実施する。長期的な修理計画を策定するためのX線、赤外線写真等光学的データのデジタル画像処理システムの開発を行い、将来的に文化財保存カルテ等作成に利用できるデータベースの構築を目指す。 館所蔵模写模本類による原品復元に関する調査研究を行う。</p> <p><b>(京都国立博物館)</b> 京都文化を中心にした文化財の調査研究を計画的に実施する。 神と仏の思想的交流と造形に関する調査研究を実施する。 修復文化財に関する調査研究を実施する。</p> <p><b>(奈良国立博物館)</b> 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施する。 仏教美術写真収集及びその調査研究を行う。</p> <p>(1)-2 国内外の博物館・美術館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。</p> <p>(2) 調査研究の成果については、展覧会、文化財の収集等の博物館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネット等を活用して広く情報を発信し、博物館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>	<p>調査研究の実施状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 収蔵品の調査研究 客員研究員及び調査員制度の活用による収蔵品の調査研究</p> <p>2. 展覧会のための調査研究 南都諸社寺に関する計画的な調査研究 特別展等に関する調査研究 (東大寺戒壇院四天王立像X線撮影による内部構造、宮内庁正倉院事務所研究員との共同による中宮寺天寿国繡帳、石山寺本尊如意輪観音像胎内金銅仏等) 仏教美術写真収集及びその調査研究</p> <p>3. 科学研究費補助金による調査研究 日本上代における仏像の荘嚴に関する研究(聖林寺十一面観音立像光背、東大寺二月堂舟形光背) X線透過撮影法による中国請来木彫仏像の調査研究</p> <p>4. 保存・修理に関する調査研究 大和古代寺院出土遺物の帝塚山大学考古学研究所との共同研究</p> <p>5. その他の研究 海外所在東洋美術を対象とする調査研究(ベルリン東洋美術館) 韓国国立慶州博物館、中国上海博物館、中国国家博物館(北京)等との学術交流。</p> <p>6. 客員研究員等の招聘 客員研究員 3名 その他の研究員 14名</p> <p>7. 研究員等の派遣 13名</p> <p>8. 調査研究成果の発表等 ・『鹿園雑集』第5号 ・日本上代における仏像の荘嚴に関する研究(科学研究費補助金)報告書 ・国際研究集会の開催(3月8日) ・文化財修理報告書刊行のための資料収集等の調査 ・ホームページ上での文化財情報・研究情報の継続的な公開及び『鹿園雑集』バックナンバーの公開</p> <p>9. 特記事項 特別展開催を目的とした多種の調査研究を進めた。国際研究集会を3年連続で開催するなど、海外との学術交流に特に力を注いだ。</p>	<p>A</p>	<p>収蔵品や展覧会に関する調査研究は着実に行われ、文化財の収集、展覧会及び図録の刊行などに成果を上げた。その他にも、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得や外部の研究者との連携・協力により、充実した調査研究が行われた。 特に、戒壇院四天王像4?をX線透過撮影したことを評価する。 また、研究紀要等をホームページでも積極的に公開したことも評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 研究成果を積極的に公開し、学会等にも発表することが望ましい。</p>	
<p><b>4 教育普及</b></p> <p>(1)-1 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。</p> <p>(1)-2 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。</p> <p>(3)-3 美術図書等の閲覧施設を研究者中心から一般へと利用の拡大を図り、生涯学習の場とする。</p> <p>(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、図版目録、展覧会目録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立博物館への理解の促進を図る。 また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、3館共同による広報体制の在り方について検討を行う。</p> <p>(5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。</p> <p>(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、文化財情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法につ</p>	<p>博物館に関する情報の収集及び公開の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 資料の収集及び公開 収集件数 写真原板 15,680枚 図書 1,915冊 公開場所 仏教美術資料研究センター、西新館学習コーナー ・利用者数 167人 ・貸出件数 0件(閲覧のみ)</p> <p>2. 広報活動の状況 収蔵品についての文化財情報データの作成 10,605件 収蔵品についての画像ファイルの蓄積 1,000件 博物館だよりの発行(発行回数 4回、発行部数 各20,000部) 小中学生に対する文化財理解の普及のためのコンピュータ画像の積極的活用 展覧会場に陳列作品の解説一枚刷りの配置 重要文化財の館蔵品の詳細な画像データの蓄積とその公開 概要の刊行(年1回) 各展覧会目録の刊行(6冊) 調査、研究活動の実績のパネル等での公開(東大寺展における執金剛神立像の調査成果公開)</p> <p>3. デジタル化の状況 ホームページ掲載写真検索システムの個別データを10,605件追加 ホームページアクセス件数 507,492件</p> <p>4. 特記事項 近隣県を含めた市町村教育委員会を訪問し、特別展・特別陳列等についての事前説明、観覧案内を行い、小・中学生の来館を促した。</p>	<p>A</p>	<p>資料の収集・公開、各種広報誌の発行、収蔵品のデジタル化など計画どおり着実に実施した。 また、ホームページは、展覧会や収蔵品情報等の充実を図り、アクセス件数を伸ばした。 奈良国立博物館の全ての国宝を高精細画像でデジタル化し館内及びホームページで公開した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 収蔵品のデジタル化やその公開については、より一層の取組が望まれる。 仏教美術資料研究センターを多くの国民が利用できるよう、館内の案内表示や広報を積極的に行うことが望ましい。 所蔵図書のデータをホームページで公開することが望ましい。</p>	
<p>客員研究員等招聘人数</p>	<p>9人以上</p>	<p>6人以上 9人未満</p>	<p>6人未満</p>	<p>17人</p>	<p>A</p>	
<p>研究員派遣</p>	<p>2人以上</p>	<p>1人</p>	<p>0人</p>	<p>13人</p>	<p>A</p>	
<p>出版件数</p>	<p>4回以上</p>	<p>3回</p>	<p>3回未満</p>	<p>4回</p>	<p>A</p>	
<p>収蔵品等のデジタル化件数</p>	<p>3,000件以上</p>	<p>2,100件以上 3,000件未満</p>	<p>2,100件未満</p>	<p>10,605件</p>	<p>A</p>	

<p>いて検討する。 また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	<p>ホームページのアクセス件数</p>	<p>180,000件以上</p>	<p>126,000件以上 180,000件未満</p>	<p>126,000件未満</p>	<p>507,492件</p>	<p>A</p>	
<p>(2)-1 次に掲げる各館の方針に従い、新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした文化財解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、文化財等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。 また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。 <b>(東京国立博物館)</b> 児童生徒を対象とした文化普及事業及び文化財とのふれあい事業を実施し、教育普及の推進を図る。 中・高校生を対象とした総合学習としての職場体験学習及び大学等を対象としたインターンシップの受け入れを実施する。 <b>(京都国立博物館)</b> 小中学生学習プログラム等について検討、実施する。 <b>(奈良国立博物館)</b> 親子の文化財教室を実施し、児童生徒に対する教育普及の促進を図る。 修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成、解説等について検討、実施する。 (3)-1 文化財に関する情報について正しく後世に伝えるとともに、その理解を深めるような講演会、講座及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。 それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。 また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。 (3)-2 友の会活動を通じて、文化財に接する機会を増やし、より充実した学習の場を提供する。</p>	<p>講座・講習会等の実施状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 児童生徒を対象とした事業 親子の文化財教室 2回(前期4日・後期4日) 修学旅行生等を対象とした解説ボランティアによる展示作品解説及び課題学習等の質問への対応 展覧会毎にクイズ形式ワークシートの作成 地元中学生3名の職場体験学習の受け入れ実施 2. 講演会等の事業 公開講座 19回 ギャラリートーク 19回 夏期講座 1回(3日間) 3. 友の会活動 会員数 2,741人</p>	<p>686人 19回 2,640人 95% 回答数380件、良い95%(361件)、普通5%(19件)、悪い0%(0件) 3日 390人 80% 回答数70件、良い80%(56件)、普通12%(8件)、悪い8%(6件) 19回 1,368人 1回以上</p>	<p>A A A A A A A A A A</p>	<p>児童生徒を含む多くの人々を対象とした講演会や友の会の活動などを計画どおり着実に実施した。 特に、「親子の文化財教室」ではボランティアと協力し内容の充実を図り、アンケートで8割以上から良いとの回答を得た。 <b>【より良い事業とするための意見等】</b> 外部の専門家の協力を得るなどして、国立博物館としてふさわしい事業を検討することが望ましい。 一般観覧者にも配慮しつつ、展覧会場内で学校の教員等が解説できる方策を検討することが望ましい。</p>	
<p>(4)-1 博物館・美術館関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。 (4)-2 全国の公私立博物館等の学芸担当職員(キュレーター)の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。 (4)-3 公私立博物館・美術館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。 (4)-4 公私立博物館・美術館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。 (4)-5 大学等と連携し、大学院生や大学生を受け入れ、文化財に関する実習等について検討、実施する。 (6)-1 ボランティア希望者に対し、そのニーズに応える研修を実施し、参加者の拡大を図る。ボランティアは登録を行い、連携協力して展覧会での解説など、国立博物館が提供するサービスの充実を図る。 なお、ボランティアの受け入れについては、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の延人数の確保に努める。</p>	<p>研修等の取組み状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 研修の取組 ・学芸担当職員研修受け入れ 今年度は申込みなし ・公私立博物館・美術館の展覧会の企画に対する援助・助言 学術協力:「聖徳太子展」「薬師寺展」「国宝 鑑真和上展」の企画、展示等への協力 2. 大学等との連携 ・博物館学実習生 20大学49名 ・放送大学面接授業 2回実施(受講生各150名) ・奈良女子大学との連携講座の開設(大学院生3名) 3. ボランティアの活用状況 解説ボランティア(第5期)の募集 登録者数117名 展示解説、インフォメーション、学習普及活動補助等の充実。 ボランティア対象の研修の充実(年16回実施) 4. 特記事項 当館の学術協力のもと開催された3展覧会は、仏教美術を専門とする当館が輸送、展示に協力・助言することにより、通常では全国巡回することのない鑑真和上像が出陳されるなど、地方で観覧することの少ない優品を展示することができ、成果を収めている。</p>	<p>49人 2回 150名</p>	<p>B A A</p>	<p>公私立の博物館・美術館等に対する援助・助言、博物館実習生の受け入れ、ボランティアの活用など計画どおり着実に実施した。 特に、公立の博物館・美術館の展覧会に対し、陳列・管理・保存、図録の原稿執筆等を積極的に協力した。 また、ボランティアの自発的な活動を促し、業務の充実を図った。 <b>【より良い事業とするための意見等】</b> ボランティア等として、大学生・大学院生の活用も検討することが望ましい。</p>	

	奈良女子大学との連携講座（大学院生）	3人以上	2人	2人未満	3人	A	
	ボランティアの受入件数	99人以上	69人以上 99人未満	69人未満	117人	A	
(6)-2 企業との連携等、国立博物館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討する。	渉外活動の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 渉外活動 最寄り駅（近鉄奈良駅）構内での展覧会ポスター無料常設掲示等 地元観光連盟・観光協会等が主催する観光イベントでの展覧会広報協力等 特別陳列における新聞社の後援、企業の協賛 正倉院展における地元ホテル・旅館関係のポスター・チラシの設置協力、前売券の販路拡大、広報エリアの拡大	A	地元産業界の協力を受け広報活動等の充実を図った。  【より良い事業とするための意見等】 今後も、引き続き積極的に行うことが望ましい。
<b>6 その他の入館者サービス</b> (1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。 (1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。 (1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。 (1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。 (2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な博物館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる博物館となるよう努力する。 (3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。	その他の入館者サービスの状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 高齢者・身体障害者のための施設等 本館 障害者エレベータ 1基、スロープ 1か所、車椅子 5台 西新館 障害者トイレ なし（東新館と兼用）、障害者エレベータ 1基、スロープ 1か所、車椅子 4台（東新館と兼用） 東新館 障害者トイレ 1か所、障害者エレベータ 1基、車椅子 4台（西新館と兼用） 地下回廊 障害者トイレ 2か所、障害者エレベータ 2基（本館、西新館と兼用） 2. 観覧環境の充実 音声ガイド 展覧会名 「大仏開眼1250年 東大寺のすべて」 「第54回正倉院展」 貸出期間 平成14年4月20日～平成14年7月7日 平成14年10月26日～平成14年11月11日 貸出件数 53,292台（日本語52,594台 英語698台） 13,952台（日本語13,686台 英語266台） ギャラリートーク 19回 開催期日 平成14年4月24日、5月1日、5月8日、5月15日、5月22日、5月29日、6月5日、6月12日、6月26日、7月3日、8月14日、9月11日、10月2日、11月13日、11月30日、12月11日、1月8日、2月12日、3月12日 開催場所 展示室 参加者数 1,368人（平成12年度実績 500人） 3. 入館者等の要望の反映 ・展示方法の改善（入館者の円滑な流れを意識した出陳品の配置、題箋の文字や分量の工夫） ・特別展会期中関連行事の開催（茶席、コンサート、着物イベント等） ・臨時の茶店・軽食販売所・郵便局の開設 ・地元観光イベントとの連携（奈良県観光キャラバン、なら燈花会、ライトアッププロムナードなら） ・宅配便による図録販売の拡大（東大寺展、正倉院展） ・外国語版リーフレットのリニューアル（英語）と、新規作成（中国語、韓国語） 4. 夜間開館等の実施状況 夜間開館 実施日数 31日 入館者数 5,740人 実施日 平成14年4月26日、5月3日、5月10日、5月17日、5月24日、5月31日、6月7日、6月14日、6月21日、6月28日、7月5日、7月26日、8月2日、8月9日、8月15日、8月16日、8月23日、8月30日、9月6日、9月13日、9月20日、9月27日、10月4日、10月11日、10月18日、10月25日、11月1日、11月8日、12月17日、1月12日、3月12日 開館日の増 ゴールデンウィーク期間中をはじめ、地元行事の開催に合わせ、休館日（月曜日）を4日開館 開館時間の弾力化 正倉院展において、開館時間を通常より前後1時間拡張 5. レストラン・ミュージアムショップの充実 利用者へのアンケート調査を実施、その結果をメニューの改善や新商品の導入等に反映。 6. 特記事項 ・2002FIFAワールドカップサッカー大会開催に伴う外国人入館者への対応として、従来から実施している解説ボランティアによる英語解説に加え、地元YMCAの外国人ガイドグループの協力を得て、館内の施設案内及び観光案内のサービスを実施。 ・当館支援ボランティア団体「結（ゆふ）の会」の設立及び入館者への茶席提供	A	小・中学生の平常展料金の無料化、開館日の増、柔軟な開館時間の設定、展示方法の改善、展覧会関連行事の開催、宅配便による図録販売など入館者サービスの向上に努めた。 また、レストランのメニューやミュージアムショップの商品の充実にも努めた。 サッカーのワールドカップ開催期間中、外国人観光客に対し常設展を無料にするとともに、日本文化の理解促進に貢献した。

## 【九州国立博物館（仮称）】

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的 評価	定性的評価
<p><b>5 新たな博物館の運営に向けた取組み</b></p> <p>法人本部に九州国立博物館（仮称）設置準備室を設置し、展示の企画・設計・展示に必要な作品収集、調査研究等の機能の整備など、開設に支障のないよう準備を推進する。</p>	開館への準備状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			<p>1 九州国立博物館（仮称）の設置準備 設立準備室の人員費（8名）が措置され、4月1日付けで専任の室長を発令した。</p> <p>2 展示基本設計に基づき、展示実施設計を行う。 常設展示プロジェクトチーム及び常設展示専門プロジェクトチームにおいて、展示テーマ、借用交渉を含めた展示資料計画、映像ソフト・展示模型・レプリカの作製及び展示レイアウト等の検討を行うとともに、展示実施業務を実施した。</p> <p>3 実物資料、レプリカ等の展示資料を、開館までに収集・作製するため、これらの情報収集等を行う。 (1) 資料調査：国内の博物館等（延べ44か所）の所蔵資料調査及び、東京国立博物館所蔵の資料調査（延べ46回）を実施。 (2) 借用交渉：国立歴史民俗博物館（資料借用37件、レプリカ作製2件の内諾）、国内の博物館等（延べ41か所）、大韓民国国立中央博物館に対し借用交渉を実施。 (3) レプリカ作製：宮内庁所蔵資料2件、日本銀行所蔵資料1件のレプリカを作製。 (4) 資料修理：東京国立博物館から提供予定の展示資料のうち50件の資料について修理を実施。</p> <p>4 博物館諸機能業務に関する検討を進める。 (1) 管理運営：福岡県と一体的な運営を行うための具体的な協議を実施。 (2) 教育普及：教育普及・生涯学習ゾーンに関する実施設計の検討及び学校教育との連携、ボランティア活動等に関する検討を実施。 (3) 交流：福岡県と共催で九州国立博物館（仮称）国際シンポジウム「海を越えた人・モノ・たくみ」を福岡市において開催。 (4) 高度情報化：北九州装飾古墳壁画データベースを作成するとともに、対馬宗家文書のマイクロ撮影を開始。 情報システム設計委託発注に向けた準備を実施するとともに九州国立博物館（仮称）設立準備室のホームページの立ち上げ。</p>	A	<p>平成14年度は設立準備室の職員8名を定員措置し、展示実施設計も終了するなど、開館に向けて着実に準備が進められている。 今後も、教育普及的な視点を盛り込んだ魅力的な展示の検討や質の高い資料の収集に努めることが望ましい。</p>